

●日本赤十字社社員心得

明治三十四年十二月

改正

●明治四十三年六月二十一日
社第四四九三號

日本赤十字社社員心得

- 一 年釀金ハ毎年一月五月九月ノ三期ニ分チ出金スルモノトス但シ都合ニ依リ一回ニ出金シ若ハ中途ニ於テ残額ヲ一時ニ出金スルモ妨ケナシ此場合ニ於テハ其ノ六分ノ一ヲ減額ス
- 一 新ニ加盟セシ社員ノ其ノ年度ニ於ケル出金ハ左ノ區分ニ依ル
 - 一月ヨリ四月迄ニ加盟ノ者 第一期分ヨリ
 - 五月ヨリ八月迄同 第二期分ヨリ
 - 九月ヨリ十二月迄同 第三期分ヨリ
- 一 轉居ノ場合ハ其ノ地名番地ヲ詳記シ舊住地ノ所管部ニ通報スヘシ
- 一 氏名變換其ノ他身上ノ異動ハ其ノ都度所管部ニ通報スヘシ
- 一 正社員ヨリ特別社員ニ資格變換ノ場合ハ正社員章ハ所管部ヲ經テ返納スヘシ

正社員締盟狀雛形

●正社員締盟狀及特別社員推薦狀書式ノ件

明治二十年六月一日

締盟狀

爰ニ位勳爵何某氏本社忠
愛ノ主旨ニ協同セラルル
ヲ以テ定款ニ照シ正社員
ニ列ス

明治 年 月 日

日本赤十字社總裁

日本赤十字社長

特別社員推薦狀雛形
(功勞ノ分)

爰ニ……誰某氏本社忠
愛ノ主旨ニ協同盡力セラ
ル其功勞ヲ以テ定款ニ照
シ特別社員ニ列ス

明治 年 月 日

總裁

社長

(篤志ノ分)

爰ニ……誰某氏本社忠
愛ノ主旨ニ協同シ特ニ社
資ヲ幫助セラルルヲ以テ
定款ニ照シ特別社員ニ列
ス

明治 年 月 日

總裁

社長

●縮盟狀紛失等ニ依リ再授ノ場合ハ謄本ニ裏書交附ノ件

縮盟狀紛失其他ノ事故ニ依リ再授申出ノモノニ對シテハ別紙雛形ノ通入社當時交付セシ縮盟狀ノ謄本
ニ裏書ヲ付シ交付ノ事ニ今般決定相成候條御承知相成度此段及御通知候也

明治四十年三月三十日
一ノ三乙第五八三號(本社)

謄本雛形

爰ニ
本立忠愛ノ主旨ニ協同セラルルヲ以テ
社則ニ照ラシテ 社員ニ列ス

明治 年 月 日

日本赤十字社總裁
大勳位功二級彰仁親王

日本赤十字社長
從二位勳一等伯爵佐野常民

裏書

入社當時ノ縮盟狀亡失ノ趣ニ付其謄本
ヲ交付ス

明治四十年 月 日

日本赤十字社

●寺院名義ノ入社ハ承認致シ難キ件

明治三十一年一月十日
社甲第一號(本社、滋賀支部宛)

客年十二月十五日電信御問合相成候寺院名義ヲ以テ入社ノ件一應詮議候處右ハ例規ニ牴觸シ承認難致
モノト決議相成候ニ付右様御承知相成度此段御回答申進候也

●私法人ノ入社ハ承認セサル件
明治三十四年二月廿五日
一ノ三乙第三〇三號(第一部、島根支部宛)

●私法人ノ入社ハ承認セサル件

明治三十四年二月廿五日
一ノ三乙第三〇三號(第一部、島根支部宛)

通牒

私法人(銀行會社等)ノ名ニ於テ入社申込書差出候モノニ對スル取扱方ノ義ニ付二月十五日付庶第二三〇號ヲ以テ御照會ノ趣了承候處右ハ本社々員ノ資格ハ其本人一身ニ止マリ父子ノ間ト雖モ讓與繼承スルヲ得サル例規ニ有之隨テ會社銀行ノ如キ法人ヲ社員ニ列スルトキハ其代表者タルモノハ一社員ノ資格ヲ繼承スルコトト相成リ例規ニ牴觸候間從來私法人ノ入社ハ承認不相成候條御承知有之度候也

●資格變換再加盟退社員等取扱方ノ件

明治三十一年五月二十七日
社乙第八二一號(本社)

通牒

社員取扱ニ關スル例規ノ内改正之件々別記之通決議相成候條自今右ニ據リ御處行有之度此段御通牒申進候也

記

- 一 贊助社員ヨリ正社員ニ資格變換ノモノハ其一時出金ト否トニ拘ラス舊資格中ノ出金ヲ新資格ノ年釀金ニ差繼キ通算スルヲ得ル事
 - 一 社員一旦退社再加盟ノモノ年釀金ハ一時出金ト否トニ拘ラス前後差繼キ通算スルヲ得ル事
 - 一 資格變換者ノ舊締盟狀ハ回收ヲ要セス紀念トシテ本人ニ保存セシムル事
 - 一 退社員ニシテ年釀金入社以來未納ノモノハ除名ニ處分スル事(外一項消滅)
- 從前ノ例規ニシテ右諸項ニ抵觸スルモノハ自今總テ廢止ノ事
(社員取扱ニ關スル例規全部消滅)

◎第二節 社員章 記章

●日本赤十字社有功章社員章條例

明治廿一年六月廿二日
第三五二號(社長)

改正

●明治廿三年五月廿一日
官報第二〇六五號
明治二十八年十月一日

●明治二十六年七月十四日
明治三十五年七月十二日
社甲第三四〇號

拜啓然者本社表章設定ノ議ニ付總裁殿下ヨリ宮内大臣へ請願ノ末昨二十一日付ヲ以テ書面ノ趣遂奏聞候處開召届候旨ノ指令ヲ得候間別紙條例相添此段御通報申進候也

日本赤十字社有功章社員章條例

- 一條 天皇 皇后兩陛下ノ眷護ヲ蒙リ宮内省陸海軍兩省ノ監督ヲ受ケ政府公約ノ下ニ立チ歐洲赤十字社ニ聯合セシ日本赤十字社ハ二十年四月宮内省ノ認可ヲ經タル改正社則第十五條ニ基キ有功章及社員章ヲ設クルノ批准ヲ得テ此條例ヲ定ム
- 二條 有功章ハ社事ニ功アル者ニ附與シ社員章ハ三種ニ分チ第一種ハ名譽社員ニ第二種ハ特別社員ニ第三種ハ正社員ニ附與ス
- 三條 有功章ヲ附與セントスル者アル時ハ其ノ功勞ヲ録シ常議會ニ附シテ可決シタル後總裁ヨリ宮内大臣ニ具申シ上奏裁可ヲ得テ之ヲ附與ス
- 四條 社員章ハ名譽特別正社員ノ資格ヲ有スル各人名ヲ録シ總裁ヨリ宮内大臣ニ具申シ上奏ヲ經テ之ヲ附與ス
- 五條 有功章社員章ハ批准ヲ得テ設ケタル表章ナルカ故ニ之ヲ附與セラレタルモノハ公會ニ佩用スルコトヲ得

六條 有功章制式左ノ如シ

章 銀 四條光線白佛鉢嵌中心
圓形内鳳竹樹赤十字

七條 社員章制式左ノ如シ

第一種

章 銀 鍍金 圓形文同上 佛鉢嵌ヲ用キス

綬 赤織 同上 綵花ヲ付ス

第二種

章 銀 同上

綬 赤織 同上

第三種

章 銀 同上

綬 赤織 同上

八條 有功章社員章ハ男女共ニ左肋ニ佩ルモノトス我國勳章記章褒章ヲ有スルモノハ其後ニ列佩スヘシ外國勳章並ニ其政府ヨリ出ス記章ヲ有スル者ハ其勳章記章ノ後ニ列佩スヘシ

九條 有功章社員章ハ併佩スヘシ併佩スルトキハ有功章ヲ前ニシ社員章ヲ後ニスヘシ

員章ヲ本社へ返納スヘシ

●日本赤十字社有功章社員章佩用者心得

明治二十二年一月八日 甲 第七號

改正

●明治二十二年十二月二十八日 甲 第五三八號

●明治二十三年二月四日 甲 第三三四號

●明治三十年二月二十四日 社 乙 第一八五號

日本赤十字社有功章社員章佩用者心得書

- 一 有功章社員章ハ二十一年六月二十一日宮内省ノ批准ヲ經タル條例第五條ニ明文アルヲ以テ何レノ公會ヲ問ハス佩用スルコトヲ得ヘシ
- 一 宮中又ハ官衙内ニ於テ佩用スルコトヲ得ヘシ
- 一 大禮服通常禮服ノ節佩フルモノトス
但「フロックコート」ヲ以テ禮服ニ代用ヲ得ルトキモ佩フルヲ得ヘシ
- 一 本社會同等ノ節ハ男子ハ羽織袴女子ハ紋付着用ト雖モ佩フルコト勝手タルヘシ
但神官僧侶等ハ右ニ準スル服着用ノ節佩フルコト勝手タルヘシ
- 一 有功章社員章ヲ遺失若クハ紛失シ又ハ盜火難等ニ罹リタルトキハ本社へ届出テ再受スルコトヲ得ヘシ
但原價ヲ辨償スルモノトス尤モ不可避ノ災厄ニ因リテ亡失シ事實明確ナルモノハ特ニ詮議スルコトアルヘシ
- 一 退社員ニシテ前條ノ事故ニ由リ社員章ヲ返納シ能ハサルトキモ亦其但書ニ同シ
- 一 有功章及社員章ノ略綬ハ通常服「フロックコート」ノ左襟見返ノ釦孔ニ掛ケ佩フヘシ
- 一 男子ハ羽織袴女子ハ白襟紋付着用ノ節略綬ヲ佩フルモ妨ケナシ

日本酒十三年醸造會章程施行細則
第一章 總則
第一條 本會之目的在於
第二章 會員
第三條 凡欲加入本會者
第四條 會員之權利
第五條 會員之義務
第六條 會員之退會
第七條 會員之除名
第八條 會員之繼承
第九條 會員之喪失
第十條 會員之復會
第三章 會費
第十一條 會費之種類
第十二條 會費之納付
第十三條 會費之免除
第十四條 會費之追納
第十五條 會費之退還
第四章 會務
第十六條 會務之執行
第十七條 會務之報告
第十八條 會務之監督
第十九條 會務之變更
第五章 附則
第二十條 本章程之施行
第二十一條 本章程之解釋
第二十二條 本章程之修改
第二十三條 本章程之廢止

●社員章ハ一期以上年醸金ノ納付ヲ待テ交付ノ件

明治二十八年五月五日
(社長)

通牒

先般廣島ニ於テ開會ノ各地方役員會席上ニ於テ殊ニ參會者ハ注意致置候通從來締盟狀社員章ヲ交付スルニ際シテハ其年醸金ノ納否ニ關セスシテ之ヲ交付シ後ニ收金ノ手續ニ及フノ地方有之様承知致候處右ニテハ一回モ年醸金ノ義務ヲ盡サスシテ社員章ヲ佩用シ甚シキハ遂ニ其儘退社ヲ申込等ノ弊少カララス各地既ニ其例多々有之甚不都合ノ至ニ付今後ハ先ツ一期以上ノ年醸金ヲ收納セサレハ社員章類ノ交付ハ御見合セ其納付ヲ待テ交付ノ手續ニ及ハレ候様各委員長其他當局諸氏へ可然御傳達相成度此段御通牒申進候也

●社員章ヲ代人ニ佩用セシメサル件

明治二十八年六月廿一日
甲第一四二號(社長)

本社ノ社章ハ正社員以上ニ限り特ニ付與セラレタル特殊ノ表章ニシテ有功章ハ其人ノ本社ニ對スル功績ヲ表彰スル票章ナルヲ以テ政府ノ勳章等ト同シク宮中及都テノ公會ニ佩用スルヲ得ルノ榮譽アルモノニ付其付與ヲ受ケタル該當人ニ限り佩用スヘキハ素ヨリ論ヲ竣タス然ルニ目今ノ如キ社員ノ數饒多ニ至リ候ニ付テハ往々自己ノ代人ニ佩用セシメ又ハ父子兄弟共用スルハ害アラサル如キ誤解ヲ有スルモノナキヲ難保深ク憂慮致候義ニシテ自然事機ニヨリ之ヲ還却セシムルカ如キ不幸ニ陥リ候ハ本意ニ背キ候義ニ候條何卒右様ノ行違無之様委員長等ニ篤ト御申傳寄々社員一般ニ貫徹候様御取計有之度此段御照會申進候也

●上級ノ社員章ヲ受クルトキハ下級ノモノハ返却スヘキ件

明治三十五年十一月二十四日
社乙第二四六九號(社長)

通牒

正社員ヨリ特別社員ニ推薦ノモノハ其正社員章還收ノ儀ハ從來御配慮相成候義之處尙被推薦者ニモ此等ノ主意徹底ノ爲推薦書ト共ニ交付セル寫眞差出方要求書ニ別紙ノ如ク追書致置候條兼テ御承知置相成度此段爲念申進置候也

(別紙)

本社有功章佩用者及名譽社員特別社員各位ハ芳名ト共ニ其肖像ヲモ永ク本社ニ保存可致等ニ候間右表章御佩用アル寫眞一葉至急御贈付被下度候也

明治 年 月 日

日本赤十字社

追テ有功章ハ社員章ト併佩シ社員章ハ上級ノ章ヲ受クルトキハ其下級ノモノハ返却アルヘキ規定ニ付正社員ヨリ特別社員推薦ノ向ハ其正社員章ハ本文寫眞ト共ニ支部ニ返却セラレ度候

●返納社員章取扱方ノ件

明治四十一年三月六日
用乙第六六號(第二部)

通牒

去ル三十五年四月廿二日付會用乙第二六三號通牒返納社員章返納證書式ハ自今別紙ノ通御承知且御送納ノ場合小箱ハ取除社員章ノミ男女ヲ區別拾個ツツ結束略段ハ別ニ袋入トシテ一同取纏メ御送付相成度此段及御通牒候也

(別紙) (用紙ハ半紙罫紙ヲ用ヒ初メノ一行ヲ明ケ置クコト)
(支部發送番號)

明治 年 月 日

日本赤十字社物品會計主任宛

何支部(何委員部)(何特別委員部)印

社員章返納證

一返納社員章

何個(小包郵便或鐵道便)紙包又ハ箱入

譯	内		種	別	男	女	計	摘	要
	資格變換	退社							

●有功章社員章ヲ遺失紛失等ノ狀況天災ト同視スヘキ

モノハ支部ニ於テ審査ノ上再授ノ件 明治三十九年十二月二十四日
一ノ三九一號(社長)

通知

不可避災厄ニ因リ社員章ヲ亡失シ又ハ盜難ニ罹リ若クハ遺失紛失シタルモノト雖其情況ハ天災ト同視スヘキモノハ申告ニ依リ本社ニ於テ詮議ノ上處理致候處明治四十年一月一日以後右申出有之タル場合ハ支部ニ於テ事實審査ノ上有功章社員章佩用心得書第五項但書ニ依リ處行可有之候也

●社員章類再交付取扱方ノ件

明治三十九年十月二十九日
二ノ二甲第五九號(第二部)

社員章類遺失又ハ盜火難等ノ爲メ再渡方ニ付テハ其ノ都度本社ニ御請求ノ上御渡致居候處自今其受授ノ手數ヲ省略シ入社員ヘノ交付用トシテ豫送致置候内ヲ以テ便宜再渡相成社員章受拂報告表中別紙甲書式ノ通り再渡ノ一欄ヲ加ヘ自一月至四月分ヲ五月中ニ自五月至八月分ヲ九月中ニ自九月至十二月分ヲ翌年一月中ニ御報告相成其代價ハ別紙乙書式ニ依リ同時ニ御回金相成度
(別紙)

甲書式
自何月 社員章受拂左ノ通り及報告候也
至何月

年 月 日
本 社 宛

支 部 名

種 類	越 高	受 高	計	入 社 員 再 渡 高	計	事 由	殘 高
男正社員章	一二四	一〇〇	二二四	一〇四	一〇六		一一八

乙書式
自何月 再渡社員章類原價左記ノ通り及送金候也
至何月
年 月 日

支 部 名

第一二部 宛
一金何圓何錢也

種類	員數	單價	計金	備考
男正社員章	二	八七〇	一七四〇	
計				

●有功章及社員章再交付ノ場合ニ於ケル價格ノ件

改正 ●明治四十一年十月(價格表)

●大正七年二月二十二日
經用第一三二號

●大正八年二月三日
經用第六六號

明治三十九年八月二十二日
二ノ二甲第五三號(第二部長)

通牒

有功章、特別社員章、終身社員章、正社員章再交付ノ場合ニ於ケル價格表今般別紙ノ通改正致候間自今右ニ據リ御取扱相成度候

社員章類再交付價格表

種類	徽章	略	綬	箱	計
男有功章	一四、九〇		二〇	八五	一五、九五
女有功章	一五、五〇		二〇	八五	一六、三五
男特別社員章	一、一七〇		三〇	八五	一、九〇
女特別社員章	一、二〇〇		三〇	八五	一、九〇
男終身社員章	一、二〇〇		三〇	八五	一、九〇
女終身社員章	一、二〇〇		三〇	八五	一、九〇
男正社員章	一、〇四〇		二〇	八五	一、一〇
女正社員章	一、〇四〇		二〇	八五	一、一〇
特別社員綵花	〇〇		〇〇	〇〇	〇〇
終身社員綵花	〇〇		〇〇	〇〇	〇〇

	徽 章 代 略	種 類	箱	計
一等 篤志表章				一、二〇〇
二等 同				一、一五〇
三等 同				一、一〇〇

● 遺失社員章拾得ノ場合警視廳等取扱方ノ件

明治二十九年八月十三日
静岡支部へ回答文乙第三六六號(本社)

遺失社員章拾取之場合ニ於テ取計振御問合之趣了承右ハ各地區々モ免レス候得共東京警視廳等ノ取扱振ハ拾取人ヨリ警察署ニ届出ノ上ハ本社ニ引渡相成而シテ本社ハ其拾取人ニ對シ相當ノ報勞金ヲ相送り候慣例ニ有之候間右様御承知有之度故ニ御縣ノ如キモ自然此手續ニモ相成ル義ニ候ハハ其拾取人ニハ金拾錢以上拾五錢以下之報勞金ヲ贈付シ其社章ハ本社ニ御郵送併セテ報勞金ノ償却御申越有之度此段御答申進候也

●遺失物等ニ關シ社員章取扱方ノ件

明治三十三年四月十九日
文乙第七七三號(本社)

通牒

本社々員章取扱方ノ義民法ノ實施及ヒ法律第八十七號遺失物法等ニ關シ疑義ヲ生シ問合越ノ向モ有之夫々回答取計候ニ付テハ自然貴部ノ御參考ニモ可相成ト存候間其要領及御通知候條宜敷御諒知相成度此段御通知申進候也

本社々員章取扱方

日本赤十字社社員章ハ該條例ノ趣旨ニヨリ其所有者ハ本社ニシテ社員ハ加盟シアル間之ヲ佩用スルノ權利アルモノトス即チ取扱方如左

- 一 社員入社ノ時之ヲ授與ス
 - 一 社員退社又ハ除名ノ場合ハ之ヲ返納セシム
 - 一 社員死亡シタルトキハ返還ヲ要セス遺族ヲシテ之ヲ保存セシム但遺族ハ之ヲ佩用スルコトヲ得ス
 - 一 社員章ヲ遺失シタルモノハ其原價ヲ償ヒテ再授ヲ得セシム
 - 一 遺失社員章ヲ拾得シタルモノアリテ其遺失者不明ノトキハ拾得者又ハ警察署ヨリ本社ニ返付シ本社ハ其拾得者ニ報勞金ヲ贈與ス
 - 一 本社ニ返付ヲ受ケタル社章ニシテ後日遺失者ノ發見スルトキハ之ヲ交付シ其報勞金ヲ償ハシム
- 右ノ通候也

明治三十六年七月六日
二ノ二甲第三號(本社)

●社員章拾得者ニ報勞金贈與ノ件

明治三十六年七月六日
二ノ二甲第三號(本社)

通牒

去ル三十三年四月十九日文乙第七七三號ヲ以テ及御通知候本社社員章取扱方ノ内社員章拾得者ニ給スル報勞金ノ義左項ニ依リ自今支部ニ於テ繰替贈與シ其領收證書ヲ拾得社員章ニ添へ本部へ廻送有之度此段及御通牒候也

- 一、報勞金ハ社員章壹個ニ付金拾錢ヲ贈與スルコト
 - 二、官吏、公吏其他私設鐵道ノ職員等職務上ニ係ルモノハ報勞金ヲ贈與セサルコト
 - 三、略綬ヲ拾得セシモノハ其資格ヲ問ハス總テ報勞金ヲ贈與セサルコト
- 但便宜ノ方法ニ依リ謝意ヲ傳致スルコト

●報勞金ニ對スル領收證ヲ得難キ場合取扱方ノ件

明治三十四年十月十八日
會乙第一六八七號(本社)

通牒

社員章拾得者へ與フル報勞金ニ對シ其拾得者ヨリ領收證書ヲ受取リ御送致相成度旨其都度及御照會來候處中ニハ警察官署ニ於テ取扱帳簿等ニ報勞金領收ノ欄等設ケアリテ別ニ領收證書ヲ徴シ難キ向モ有之趣キニ付自今右様ノ場合ニ在テハ本人ノ領收證書ニ代フルニ取扱官吏ノ拂渡證明書ヲ得テ完結可致候間正當債主ノ領收證書ヲ得難キ場合ニ於テハ右様御取計相成度豫メ此段及御通牒候也

●報勞金ヲ要セサル拾得社員章返還ニ對スル領收證ノ件

明治三十六年八月八日
二ノ二乙第九二號(第二部)

通牒

自今拾得社員章ノ内官公吏又ハ停車場職員等ノ拾得ニ係リ報勞金ヲ要セサル分御送付相成候節ハ左記
之如キ領收證書發送可致候間豫メ御承知置相成度此段及御通牒候也

證

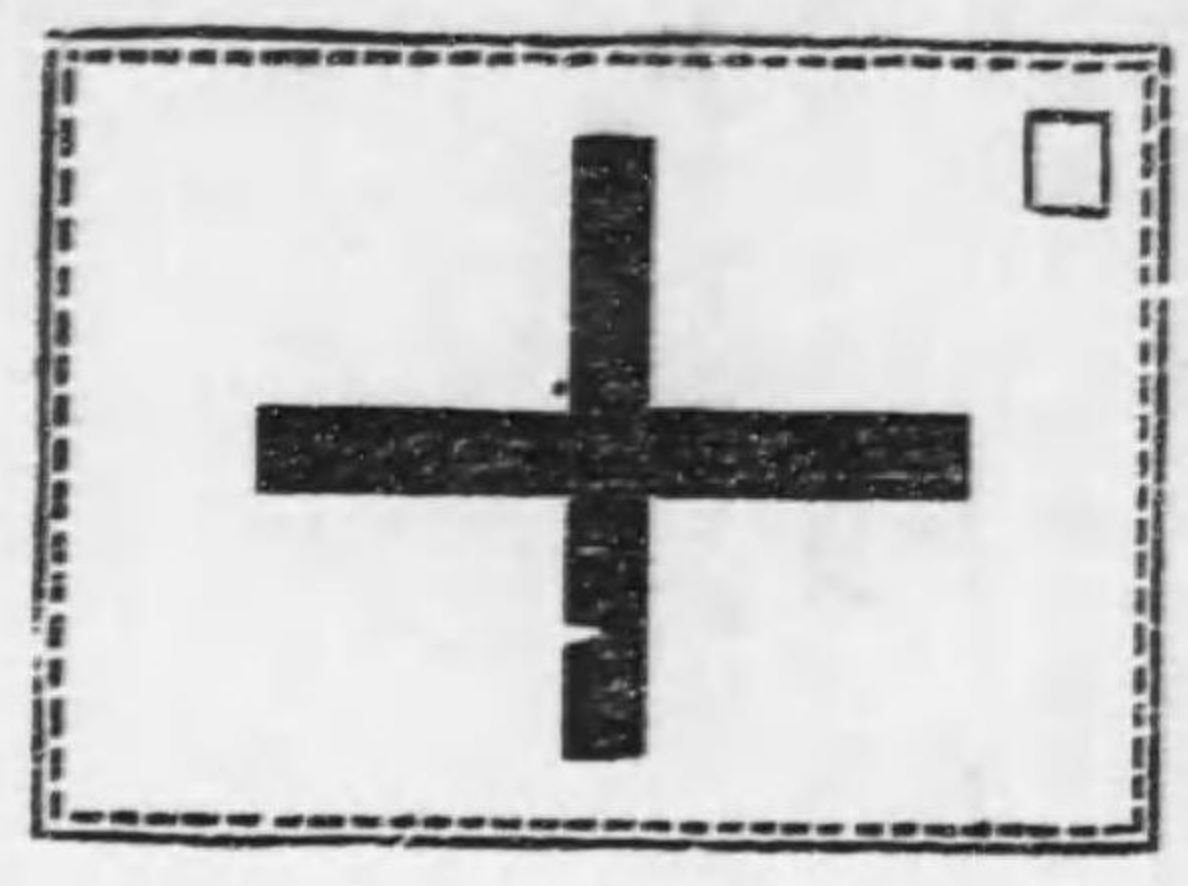
但

右返還ニ付正ニ領收候也

年 月 日

日本赤十字社

物品會計主任



戰時陸軍赤十字臂章

●戰時陸軍赤十字臂章ノ件

明治四十一年九月八日
陸達第六二二號

戰時陸軍赤十字臂章左ノ通定ム
明治二十二年陸達第六十五號中衛生部員及衛生ノ事務ニ服スル各兵各部諸員並擔架卒徽章ハ之ヲ廢止ス

- 長六寸
- 幅四寸 附著ノ圖
- 赤十字 長徑四寸
- 短徑三寸
- 幅五分



將校同相當官ハ地質白紙、裏白金巾、赤十字ハ緋絨、下士兵卒ハ地質白雲霧二重、赤十字ハ緋絨ニシテ左袖上部ノ外面（他ノ徽章アルトキハ其ノ下）ニ其ノ周圍ヲ縫着ス、陸軍省、參謀本部、臺灣總督府陸軍部、關東都督府陸軍部、韓國駐劄軍司令部及師團ニ於テ動員ヲ擔任若クハ監督スル部隊ニ所要ノモノニハ陸軍省、參謀本部、臺灣總督府陸軍部、關東都督府陸軍部、韓國駐劄軍司令部ノ印章ヲ表面ノ後上隅ニ捺ス



●勳章記章褒章佩用取締ニ關スル件

明治四十一年十二月
勅令第二百九十二號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ勳章記章褒章ノ佩用取締ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 勳章又ハ布告勅令ニ依リ制定セラレタル各種ノ記章褒章ヲ僭用シタル者又ハ其佩用ノ停止ニ
違反シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金拘留又ハ科料ニ處ス外國勳章記章ノ佩用禁止若ハ停止ニ違反シタ
ル者又ハ佩用免許狀ナクシテ佩用シタル者亦同シ
第二條 勳章又ハ布告勅令ニ依リ制定セラレタル各種ノ記章褒章ニ類似シタル標章ヲ佩用シタル者ハ
拘留又ハ科料ニ處ス外國勳章ニ類似シタル標章ヲ佩用シタル者亦同シ

附 則

明治二十八年勅令第百十八號ハ之ヲ廢止ス
日本赤十字社ノ記章ノ佩用ニ關スル例規ハ本令ニ依リ變更ヲ受クルコトナシ



●白地ニ赤十字ノ記章又ハ赤十字若ハ「ジュネヴァ」十字
ノ稱號若ハ文字等ヲ商標ニ登録セサル件

明治四十二年四月
法律第二十五號

商標法摘要

第二條 左ニ掲クル商標ニ就テハ之ヲ登録セス

六 白地ニ赤十字ノ記章又ハ赤十字若ハ「ジュネヴァ」十字ノ稱號若ハ文字ト同一又ハ類似ノモノ

● 救護紀念章佩用方ノ件

明治三十九年八月七日
一ノ一庶第九二二號(第一部長)

通牒

明治三十七八年戰役救護紀念章ノ用ヒ方ハ各自ノ希望ニ一任セラレ候義ニ候處右ハ佩用方ヲ一定セラ
レ度旨希望ノ向モ有之候ヘ共元來右等徽章ノ佩用方ニ就テハ夫々政府ノ法令モ有之儀ニ付其法令ニ概
觸セサル範圍内ニ於テ佩用スルハ差支無之自然佩用ノ場合ハ社員章ノ次ト御承知相成度候

●救護紀念章ノ殘品ヲ紛失落失者等ニ無償交付ノ件

明治四十年六月二十二日
一ノ一庶第四五八號(本社)

通牒

明治三十七八年戰役救護紀念章ノ義ハ曩ニ御交付ヲ了シタル結果目下若干ノ殘餘有之候ニ付紛失落失者等ニハ無償ヲ以テ再授可致候間所要員數交付方取纏御請求相成度候
追テ貴部へ豫送シタル分ニシテ殘餘相生居候ハ該品ヲ以テ本文同様再授方御取計相成度此場合ニ在テハ再授ノ理由社員資格氏名等其時々御報告相成度候

●二十五年紀祝典記念章取扱心得

明治三十六年七月十五日發行
日本赤十字第百二十四號掲載

記念章取扱心得

本社創立二十五年紀祝典記念章ハ一時限り交付ノモノニシテ社員章トハ全ク其性質ヲ異ニスル爲メ遺失又ハ拾得等ノ場合ニ於ケル取扱方ヲ左ノ如ク定メタリ

- 一 記念章ヲ遺失シタルモノニシテ再受領ヲ望ムモノハ本社ニ豫備ノ存スル限りハ原價ニテ再交付スヘキニヨリ其遺失ノ次第ヲ記シ支部ニ請求スヘキ事
- 一 遺失記念章ヲ拾得セルモノアリテ其筋ヘ届出タル場合ハ普通物品ト見做シ警察官署ノ處分ニ任スル事

●二十五年紀祝典記念章ヲ交付セシモノニシテ退社

死亡除名遺失盜難火災ニ係ル取扱方ノ件

明治三十五年十一月十一日
文甲第五三三號(社)長

通牒

記念章交付ノモノニシテ退社死亡除名遺失盜難火災ニ係ル取扱ノ儀左記ノ通相定メ候ニ付此段及御通知候也

- 一 記念章交付ノ社員ニシテ退社除名死亡ニ係ル者ハ返納ヲ要セス
- 一 記念章交付ノ社員ニシテ遺失盜難火災等ノ爲再交付ヲ申出ルモ再交付ノ限リニアラス
但來年五月迄ハ新入社員へ交付ノ殘餘アル限リ再ヒ交付スルコトアルヘシ
- 一 來年五月以降ト雖モ自然殘餘アル限リハ再交付ヲナスコトアルヘシ
- 一 再交付ヲナス場合ハ代價金貳拾五錢ヲ徴收スルモノトス

●社員章類其他豫送印刷物等ノ拂出記帳方ノ件

通 牒

大正七年四月三十日
經用第一七三號(本社)

社員章類其他豫送シアル印刷物等ノ拂出記帳方ニ就テハ各支部ニ於ケル取扱區々ナル爲メ社員異動報告ニ於ケル新加盟者數ト社員章類出納報告ノ拂出數ト符合セサル向アリ調査上不便不尠ニ付記帳方並ニ取扱方法、社員章類出納報告等ニ關スル注意事項自今左記ノ通り實行相成度候也

追テ貴部管内委員部ヘモ參考トシテ一部宛配布ノ爲メ

部添付候也

左 記

- 一、支部ニ於ケル社員章、締盟狀、同封筒及定款條例等ノ拂出記帳ハ委員部ヨリ入社申込書到達ノ上入社承認ノ日附ヲ以テ該申込書ノ員數ニ依リ拂出證憑書ヲ作成シ社員章受拂簿様式記載例二行目ノ拂出報告ト見做シ拂出スコト
- 二、豫送ヲ受ケアル委員部ニ於テ社員章ノ拂出記帳ハ締盟狀到着ノ日附ヲ以テ其ノ送付書ヲ證憑書トナシ記帳ヲナスコト若シ締盟狀ノ到着ヲ待タズ社員章ヲ交付スルノ不得止場合ハ假拂トナシ置キ締盟狀到着ノ日附ヲ以テ本拂ノ記帳ヲナスコト
- 三、支部ニ於テ社員章ノ荷造發送ノ手續中又ハ締盟狀作成等ノ爲メ委員部ヘノ發送方翌月ニ跨ルトキト雖モ入社承認ノ日附ヲ以テ所要數全部ノ拂出ヲナシ現品ハ在庫品ト別途區別ヲナシ置クコト

- 四、社員章受拂簿殘高ノ部へ別紙様式ノ通り「送遣中假拂」ノ欄ヲ設ケ入社確定ノ社員へ交付ノ爲メ發送シタル數ヲ假拂トシ記帳シ置キ受領證到着ノ日附ヲ以テ本拂ノ記帳ヲナスコト（假令ハ直接入社申込者ニ對シ社員章ヲ送達スル場合本人ヨリノ受領證ヲ受領スル迄ハ「送遣中假拂」ノ座ニ記入シ置キ受領證到着ノ日其ノ受領證ヲ拂出證憑書トスルヲ云フ）但シ社員章出納報告ニハ本項假拂ノ員數ヲ拂出數ニ加算スルコト
- 五、再交付ヲナシタル社員章等ノ拂出記帳ハ其ノ辨償金ヲ受領シタル日附ヲ以テ其再交付申出書ヲ證憑書トシ拂出記帳ヲナスコト（即チ社員章類ヲ再交付スル場合ハ辨償金ト引換ナルヲ以テ委員部ニ於テハ交付ノ日支部ニ於テハ委員部ヨリ其辨償金ヲ受ケタル日ヲ以テ拂出記帳ヲナス）
- 六、不可避ノ災厄ニ因リ社員章ヲ亡失シタル社員ヨリ再交付ノ申出ニ對シ審査ノ上無償再交付ヲナシタル場合及社長ノ承認ヲ受ケ缺損拂ヲナス場合ハ其ノ承認ノ日又ハ承認書ヲ受領ノ日其承認書ヲ證憑書トシ拂出ノ記帳ヲナスコト
- 七、社員章類出納報告ニ於ケル拂出數ハ社員異動報告ニ掲出スル新加盟者數ト符合スルヲ要ス但社員ノ都合ニ依リ退社スルトキハ其ノ社員章ハ返納スル筈ナルモ其ノ儘返納未済ナリシ者再ヒ加盟スル場合新ニ社員章ヲ交付セサル向アリ右ノ如キ場合ハ備考ニ其ノ事由及ビ員數ヲ掲出スルコト
- 八、社員章類ノ再交付ヲ爲シタル場合社員章類出納報告ニハ備考ニ於テ必ス有償ト無償トノ區別ヲ明記スルコト
- 九、再交付社員章代ハ其ノ取扱ヒタル期間ノ分ヲ取纏メ社員章再交付取扱乙號書式ニ據ル送付書ヲ以テ社員章類出納報告ト同時ニ送付アリ度キコト
- 十、資格變換又ハ退社員ヨリ返納セル社員章ハ取纏メノ上社員章出納報告ト同時ニ送付書ヲ添付シ送付アリタキコト

- 十一、締盟狀社員章類及第一號木杯其他ノ出納報告ヲ其ノ提出期日ニ遲延スル向アリ整理上差支不尠ニ付社員取扱規程第三號書式ニ據リ遲延セサル様報告セラレ度キコト
- 十二、社員章類出納報告中其差引現在高ハ其期末現在高ヲ以テ報告スヘキ筈ナルニ往々相違セル向アリ（假令ハ本年第一期ニ於テ返還セル社員章ヲ前年第二期出納報告ニ於テ扣除シアルカ如シ）不都合ニ付爾今注意セラレ度キコト
- 十三、締盟狀用紙ノ書損、汚損等ノ爲メ拂出セル場合其ノ員數ヲ出納報告拂高再授欄ニ記入セルノミニテ其事由記入ナキ向アリ爾今備考欄ニ於テ其事由ヲ記入セラレ度キコト

◎第三節 表彰

●功勞者ニ對シ有功章授與特別社員ニ推薦木杯謝狀

贈與方申請様式

明治四十二年六月十六日
社第三八七號(第一部長)

改正 ●大正二年二月十九日
秘書第二〇三號

通牒

社業上ノ功勞ニ對シ有功章ヲ授與シ又ハ特別社員ニ推薦シ若ハ木杯謝狀ノ贈與方御申請ノ場合ハ自今別紙様式ニ據リ調査書御提出相成度依命此段及御通牒候也

追テ三十九年一ノ三乙第二一〇號ハ廢止ノ儀ト御承知相成度爲念申添候也

第一號書式 職員ノ分 (用紙美濃野紙)

明治何年何月何日

何支部長(何々)

爵

何

某團

日本赤十字社長爵何某殿

有功章授與(銀盃、手釦、懷中時計、置時計、木杯贈與、特別社員推薦)ノ義内申

何職何社員位勳功爵何某

右ノ者左記ノ通功勞顯著ニ付有功章授與(銀盃、手釦、懷中時計、置時計、木杯一組贈與又ハ特別社員推薦)ノ御詮議相成度此段内申候也

記

一 經歷及功勞

第三號書式 職員ノ分 (用紙美濃罇紙)

明治何年何月何日

日本赤十字社長爵何某殿

木杯(謝狀)贈與ノ義内申

左記ノ者頭書ノ通功勞有之候ニ付木杯一個(謝狀)贈與ノ義御詮議相成度此段内申候也

記

何支部長(何々) 爵 何

某團

職名	在職期間	現任人口	募集員數	特別有功社員	就職前募集寄附金	備考	社員資格
何委員部何分區何職	自何年何月何日 至何年何月何日	何	何	何	何		何社員
同上何職	自何年何月何日 至現今何月何日	何	何	何	何		何社員
合計	何月何年	何	何	何	何		何
同上	自何年何月何日 至現今何月何日	何	何	何	何		何社員
何職	自何年何月何日 至現今何月何日	何	何	何	何		何社員
同上何職	自何年何月何日 至現今何月何日	何	何	何	何		何社員

注意

一 經歷及功勞ハ他支部等ニ於ケル分ヲモ併セテ調査スルヲ要ス

二 募集社員數欄ノ有功、特別ハ篤志ニ依ルモノノミヲ掲クヘシ
三 募集寄附金欄ニハ有功章授與、特別社員推薦ニ係ル寄附ヲ除キタル金額ヲ掲クヘシ
第四號書式 職員外ノ分(用紙美濃罇紙)

明治何年何月何日

日本赤十字社長爵何某殿

木杯(謝狀)贈與ノ義内申

左記ノ者頭書ノ通功勞有之候ニ付木杯壹個(謝狀)贈與ノ御詮議相成度此段内申候也

記

何支部長(何々) 爵 何

某團

社事盡力ノ期間	職地	係募集(有功特別)	寄附金	備考	社員資格
自何年何月何日 至何年何月何日	何	何	何		何社員
自何年何月何日 至何年何月何日	何	何	何		何社員
自何年何月何日 至何年何月何日	何	何	何		何社員

注意

一 募集社員數欄ノ有功、特別ハ篤志ニ依ルモノノミヲ掲クヘシ
二 募集寄附金欄ニハ有功章授與、特別社員推薦ニ係ル寄附ヲ除キタル金額ヲ掲クヘシ

● 功勞者ニ對スル謝狀様式ノ件

明治四十二年七月廿七日
社第五六八號(本社)

通 牒

功勞者ニ對スル謝狀ノ儀今回左記様式ノ通り改正相成候ニ付此段及御通牒候也

記

一 謝狀(銀杯木杯贈與ノ分) (用紙鳥ノ子)

職 何

某氏

本社ノ主旨ヲ協賛シテ社事ニ盡力セラレ功勞少カラス仍テ

總裁(御名)殿下ノ台聞ニ達シ銀(木)杯一組(箇)ヲ贈リ謝意ヲ表ス

明治何年何月何日

日本赤十字社長

爵 何

某氏

二 謝狀ノミ贈與ノ分 (用紙鳥ノ子)

職 何

某氏

本社ノ主旨ヲ協賛シ社事ニ盡力セララルル所少カラス仍テ謝意ヲ表ス

明治何年何月何日

日本赤十字社長

爵 何

某氏

●功勞者ニ對シ有功章授與稟申書式ノ件

大正七年一月二十六日
庶功第二四號(平山副社長)

通牒

從來社事ニ關スル功勞者ニ有功章ヲ授與スルトキハ其社事ニ關スル最初ヨリノ功勞ヲ調査シ詮議相成
來候處今後ハ特別社員ニ推薦以後ノ功勞ヲ查察シ詮議スヘキコトニ改正相成候就テハ調査上必要相生
シ候ニ付自今有功章授與方御内申ノ節ハ特別社員推薦ノ時期ヲ分界トシ前後小計ヲ付シ内申書御提出
相成候様致度此段申進候也

追テ本文内申書式ハ明治四十二年社第三八七號及大正二年秘書第二〇三號及御通牒置候通りニ候得
共尙爲念別紙凡例一葉添付致候間御参照相成度申添也

(凡例)

社 年 月 日

何支部長〇

有功章授與之儀内申

何々何職何社員位勳功 爵 何

某

右ノ者左記ノ通功勞顯著ニ付有功章授與ノ御詮議相成度此段内申候也

一 經歷及功勞 記

職名	在職期間	府、縣、郡、市、町、村 現在人口	募集社員數	社員一人 ニ對スル 人口歩合	就職前 就職後	募集寄附金
何市支部 委員長	自明治四十一年三月一 至同四十二年六月四ケ月 年	六,000	一四	二〇	六割二分	三〇〇

合計 金 何圓
土地 何坪

何 人

第二號書式

明治 年 月 日

何支部長(何々) 爵 何

某◎

日本赤十字社長爵何某殿

金盃(銀盃、木杯、謝狀)贈與ノ義稟申

左記ノ通寄附有之候ニ付其篤志ニ對シ金盃(銀盃、木盃、謝狀)贈與ノ義御詮議相成度候也

寄附金品	寄附ノ目的ノ月日額	備	考	社員資格	爵	氏名
金 何圓	資何支部金部	何月何日		何社員	何	某
此價格何圓	何支部備品	何月何日		何社員	何	某
合計 金 何圓	何品何個				何	人

(注意)一、氏名記載ノ順序ハ寄附金額又ハ價格ノ多キモノヨリ順次少ナキモノニ及スヘシ

第三號書式

明治 年 月 日

何支部長(何々) 爵 何

某◎

日本赤十字社長爵何某殿

分割寄附金品受領報告

左記ノ通受領致候間及報告候也

寄付金品	寄附ノ目的	受領月日	備	考	社員資格	爵	氏名
金 何圓	本社資金	何月何日	何圓寄附ノ内第何回分		何社員	何	某
合計金何圓							

篤志表彰内規

第一條 本社ニ金品ヲ寄附シタル者ニハ其金額又ハ價格ニ應シ左ノ等差ニ據リ其篤志ヲ表彰ス但特別社員推薦及有功章授與ニ係ルモノハ定款ノ規定ニ據ル

第一	金拾圓未滿	謝 狀	第一號木杯	個
第二	金貳拾五圓未滿		第二號木杯	個
第三	金貳拾五圓以上		第三號木杯	個
第四	金七拾五圓未滿		第四號木杯	個
第五	金七拾五圓以上		第五號木杯	個
第六	金百圓以上		第六號木杯	組
第七	金百圓未滿		第七號木杯	組
第八	金貳百圓以上		第八號木杯	組
第九	金貳百圓未滿			組

第十號	金五百圓以上	第一號銀盃	個	—
第十一號	金七百五十圓未滿	第二號銀盃	個	—
第十二號	金千圓以上	第三號銀盃	組	—
第十三號	金千五百圓未滿	第四號銀盃	組	—
第十四號	金貳千圓以上	第五號銀盃	組	—
第十五號	金參千圓以上	第六號銀盃	組	—
第十六號	金五千圓以上	第一號金盃	個	—
第十七號	金七千五百圓未滿	第二號金盃	個	—
	金壹萬圓未滿			

第二條 金品ヲ數次ニ分割寄附スル者ハ其全部ヲ受領シタル後第一條ノ等差ニ據リテ之ヲ表彰ス
 第三條 第一條ニヨリ表彰ヲ行フ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ規定品ニ代フルニ他ノ物品ヲ以テス
 ルコトヲ得

金銀木杯製式

第一號	木	木	杯	個	三寸六分
第二號	木	木	杯	個	三寸九分
第三號	木	木	杯	個	四寸二分
第四號	木	木	杯	個	四寸五分
第五號	木	木	杯	組	四寸五分
第六號	木	木	杯	組	四寸九分

第七號	木	木	杯	組	三寸六分
第八號	木	木	杯	組	三寸九分
第一號	銀	銀	盃	個	四寸二分
第二號	銀	銀	盃	個	四寸五分
第三號	銀	銀	盃	組	四寸五分
第四號	銀	銀	盃	組	四寸九分
第五號	銀	銀	盃	組	四寸五分
第六號	銀	銀	盃	組	四寸五分
第一號	金	金	盃	個	三寸八分
第二號	金	金	盃	個	四寸五分
第三號	金	金	盃	組	四寸五分

金銀木杯トモ一個ノモノハ中央ニ彰仁親王殿下御筆誠ノ一字ヲ又一組ノモノハ同上ニ忠中ニ愛下ニ誠ノ各一字ヲ表ハス

●金貳拾五圓未滿ノ金品寄贈者表彰方支部長ニ

委任並報告方ノ件

明治四十一年十一月廿七日
庶社第六七〇號(社長)

通牒

金品寄附ニ對シ篤志表彰方本年二月一日付通牒ノ次第有之候處右之内金貳拾五圓未滿若ハ同價格ノ物品寄贈ノ向ニ對スル表彰手續ハ自今貴職ニ及御委任候間可然御取計有之度就テハ謝狀用紙並木杯ハ必要ニ應シ豫送可致候ニ付御請求相成度尙表彰手續濟ノ上ハ左記書式ニ據リ御申告有之度候也
(書式)別ニ報告方改正ニ付削除

●金貳拾五圓未滿ノ金品寄贈者報告方ノ件

大正六年六月二十一日
庶功第四〇號(社長)

通牒

明治四十一年庶社第六七〇號ヲ以テ金品寄贈者ノ内金貳拾五圓未滿若ハ同價格ノ物品寄贈ノ向ニ對スル篤志表彰手續ハ貴職ニ及御委任表彰濟ノ上ハ其ノ時日御申告相成度旨申進置候處右ハ今後時々ノ申告ヲ要セス候ニ付左記書式ニ依リ翌年一月末日限ヲ其ノ員數及摘要ノミ御報告相成度此段及御通牒候也

追テ大正七年一月御提出可相成報告書ニハ大正六年一月以後ノ分ヲ積算スヘキ義ト御承知相成此段申添候也

(第一號書式) 用紙半紙野紙

何第 號

大正 年 月 日

何支部長(何々) 爵 氏

名印

日本赤十字社長爵氏名殿

大正何年一月一日ヨリ同年十二月三十一日迄ノ間ニ於テ寄附金ヲ受領シ御委任ニ依リ篤志表彰方取計候者左記ノ通ニ候此段及報告候也

一人若ハ一團體等寄附金高ノ範圍	寄 附 金 高	寄 附 ノ 目 的	寄 附 人 員 及 團 體 數
金拾圓以上貳拾五圓未滿ノ者	金 何 圓	本部(病院)資金	何 人 幾 團 體
金壹圓以上拾圓未滿ノ者	金 何 圓	々
金壹圓以下ノ者	金 何 圓	々

計

金 何 圓

.....

備考 寄附目的ノ異ナル毎ニ別欄ニ列記スルコト
(第二號書式) 用紙半紙野紙

何第 號

大正 年 月 日

何支部長(何々) 爵氏

名印

日本赤十字社長爵氏名殿

大正何年一月一日ヨリ同年十二月三十一日迄ノ間ニ於テ寄附物品ヲ受領シ御委任ニ依リ篤志表彰方取
計候者左記ノ通ニ候此段及報告候也

一人若ハ一團體等寄附 物品見積價格ノ範圍	寄附物品名	同上 價格	見積 金高	指定箇所	寄附人員及團體數	
金拾圓以上 貳拾 五圓未満ノ者	何品 何點	金	何	圓	支部(病院)	何人幾團體
金壹圓以上拾圓未満ノ者	何品 何點	金	何	圓	同	上
金壹圓以下ノ者	何品 何點	金	何	圓	同	上
計	何	點	金	何	圓

備考 指定箇所ノ異ナル毎ニ別欄ニ列記スルコト

●金貳拾五圓未満ノ金品寄贈者ニ贈與スヘキ謝狀區分ノ件

明治四十一年十二月十日
庶社第八四六號(本社)

通 牒

金貳拾五圓以下若クハ同價格ノ物品寄贈ノ向ニ對スル篤志表彰手續ノ義曩ニ貴部ヘ委託相成候ニ付テ
ハ當該者ニ贈與ノ謝狀ハ左記ノ三種ニ區分相成居候間各種類ニ應シ夫々御請求有之度此段及御通牒候
也

記

甲 金拾圓以上貳拾五圓未満寄贈者ニ贈與ノ分

何 某 氏

本社ノ主旨ヲ協賛シ金何圓(何々)ヲ寄贈シテ社資ヲ幫助セラル仍テ
總裁載仁親王殿下ノ台聞ニ達シ木杯一個ヲ贈リ其篤志ヲ謝ス

明治 年 月 日

日本赤十字社長 侯爵 松 方 正 義

乙 金壹圓以上拾圓未満ノ寄贈者ニ贈與ノ分

何 某 氏

本社ノ主旨ヲ協賛シ金何圓ヲ寄贈シテ社資ヲ幫助セラル仍テ其篤志ヲ謝ス

明治 年 月 日

日本赤十字社長 侯爵 松 方 正 義

丙 金壹圓未満ノ寄贈者ニ贈與ノ分

何 某 氏

本社ノ主旨ヲ協賛シ金何錢ヲ寄附セラル仍テ其篤志ヲ謝ス

明治 年 月 日

日本赤十字社

●社員篤志表章規程

大正七年四月一日
本達甲第二號

日本赤十字社社員篤志表章規程左ノ通相定タ大正七年四月十五日ヨリ之ヲ施行ス

日本赤十字社社員篤志表章規程

第一條 特別社員及終身正社員タル者更ニ十箇年間年釀金三圓以上ヲ納メ又ハ一時金二十五圓以上ヲ納ムルコト一回乃至三回ニ及フ者ハ其ノ篤志ヲ表彰スル爲左ノ表章ヲ贈與ス

一等篤志表章

年釀金ヲ完納又ハ一時金ヲ納ムルコト三回ニ及ヒタル者ニ贈與ス

二等篤志表章

同上二回ニ及ヒタル者ニ贈與ス

三等篤志表章

同上一回ノ者ニ贈與ス

第二條 前條表章ノ圖及製式左ノ如シ

篤志表彰章



一等篤志表彰章	章 懸板 縦六分 横七分	風竹幹鍍金、桐花淡紫色佛精嵌輪廓鍍金、桐葉竹葉深綠色佛精嵌輪廓鍍金、十字赤色佛精嵌輪廓鍍金
二等篤志表彰章	章 懸板 前ニ同シ	桐花淡紫色佛精嵌輪廓鍍金、桐葉竹葉深綠色佛精嵌輪廓鍍金、竹幹銀、十字赤色佛精嵌輪廓鍍金
三等篤志表彰章	章 懸板 前ニ同シ	竹葉深綠色、佛精嵌輪廓鍍金、竹幹銀、十字赤色佛精嵌輪廓鍍金
	懸板 前ニ同シ	銀輪廓鍍金、表「三等篤志表彰章」裏「日本赤十字社」浮彫

第三條 本表彰章ハ社員ノ集會ニ佩用スルコトヲ得
 第四條 三等篤志表彰章ヲ有スル者更ニ上級ノ表彰章ヲ贈與セラレタルトキハ上級ノ表彰章ヲ佩用スルモノトス

●社員篤志表彰章贈與稟申方ノ件

大正七年四月十五日
庶功第一九一號(社長)

通牒

今般本達甲第二號ヲ以テ日本赤十字社社員篤志表彰章程制定候ニ付テハ特別社員及終身正社員ニシテ更ニ年釀金ヲ出金シ又ハ一時金ヲ納メントスル者アルトキハ其ノ申込ヲ徴セラレ完納ノ上表彰章贈與方御稟申相成度書式相添此段及通牒候也
 追テ明治四十三年三月社第一四二號通牒ハ廢止候間御承知相成度尙表彰章贈與ノ場合ハ左記ノ章記交付可致候也

再度年釀金出金申込書式

拙者儀貴社終身正(特別)社員ニ列居候處社資幫助ノ爲メ更ニ(特ニ)向拾箇年間年々金何圓宛出金致度此段申込候也

年 月 日

居住地 府何郡市 町何番地 縣何區 村何

何社員 爵 何

某印

日本赤十字社長爵何某殿

篤志表彰章贈與方稟申書式

年 月 日

日本赤十字社長爵何某殿

篤志表彰章贈與ノ義稟申

何支部長(何々) 爵 何

某印

左記ノ者頭書ノ通(再度年釀金完納)(一時金何圓納付)ニ付其ノ篤志ニ對シ(何)等篤志表彰章贈與ノ御詮

議相成度候也

釀出額	完納年月日	備考	社員資格	爵氏名
金何圓				
計		何人	何	某

注意 年釀金殘額ヲ一時ニ釀出スルモノハ其ノ金額及事由ヲ詳記スルヲ要ス

章記(用紙ハ從來使用セシ謝狀ニ同シ)

終身正社員ニ交付スルモノ

終身正社員 何

某氏

篤志ヲ以テ更ニ(十箇年間年々金何圓ヲ釀出完納シ)(一時金何圓ヲ納メ)社資ヲ幫助セララルルニ依リ篤志表章規程ニ據リ(何)等篤志表章ヲ贈與ス

年 月 日

日本赤十字社長位勳爵何

某卿

特別社員ニ交付スルモノ

(佩有功章)特別社員何

某氏

篤志ヲ以テ特ニ以下前同文

●私財金壹万円以上ノ金圓寄附者アリタルトキ報告方ノ件

大正七年十月十六日 庶功第七三九號(社長)

通牒

本年九月勅令第三百四十九號ヲ以テ制定セラレタル紺綬褒章ハ本年九月十八日以後日本赤十字社事業ニ對シテ私財壹萬圓以上ヲ寄附シタル者ニモ下賜セララルコトト相成候ニ付テハ褒章下賜ノ手續上必要有之候間同日以後右金額ニ達スル寄附者有之候場合ハ左記書式ニ據リ本社長へ報告相成度候也

書式 大正 年 月 日

何支部長(何々) 爵 何

某卿

日本赤十字社長爵何某殿

壹萬圓以上金品寄附者報告

左記ノ通寄附有之候間此段及報告候也

寄附金額	寄附的目	受領月日	本籍	現住所	身分職業	社員資格	官位、勳、功、爵	氏名

備考

一、金額ヲ數回ニ分チテ寄附スルモノアリタル場合ハ其ノ金額及受領月日等別ニ欄ヲ設ケテ掲記スルヲ要ス

二、物品寄附ノ場合ニ在リテハ其ノ品目、數量時價ヲ記入スルヲ要ス

● 褒狀授與ノ件

明治四十一年四月十四日
庶社第六二號(副社長)

通牒

各支部委員部若クハ分區ニシテ人口二十人以内ニ對シ社員一人ノ率ニ進歩シ且年釀金前期迄皆納ノ成績ヲ舉ケタルモノニハ感狀ノ附與相成來候處右ハ自今該名稱ヲ改メ左記様式ノ褒狀授與可相成候ニ付該當ノモノハ其成績ヲ具シ稟申有之度候也

記

一、表旗授與ノ委員部分區ニ對スルモノ

褒狀

日本赤十字社何支部

何委員部(何委員部何分區)

右社業ノ進歩顯著ニシテ成績良好ナルヲ以テ何支部規程ノ何旗ヲ受クルニ至ル爰ニ支部長ノ申告ヲ領シ此褒狀ヲ授與ス

明治 年 月 日

日本赤十字社長位勳爵

何某印

二、表旗ヲ授與セサル委員部分區ニ對スルモノ

褒狀

日本赤十字社何支部

何委員部(何委員部何分區)

右社業ノ進歩顯著ニシテ成績良好ナルヲ以テ爰ニ支部長ノ申告ヲ領シ此褒狀ヲ授與ス

明治 年 月 日

日本赤十字社長位勳爵

何某印

●篤志者ノ事蹟通報ノ件

明治三十年十月三十日
文乙第一六四〇號(本社)

拜啓愈々御清勝敬賀ノ至リニ候然ハ本社社員タル人々ハ本來忠愛ノ篤志ヨリ結合セルモノニシテ唯タ其盡ス所ニ至リ各々大小厚薄ノ差ハ有之事ニ候得共其篤志ノ發スル所ハ等シク至誠ノ一點ヨリシ固ヨリ輕重ヲ論別スヘキモノニ無之ト被存候然レトモ特ニ自己ノ嗜好物ヲ廢シ或ハ一家ノ生計ヲ節シ其他種々ノ苦行ニ依リ以テ醜金ノ義務ヲ盡シ若クハ寄贈ノ厚意ヲ表スル等殊勝ノ心掛ヲ以テスル者ニ至リテハ當ニ感歎ニ堪ヘサルノミナラス之ニ對シテハ格別ニ其篤行ヲ顯彰スルノ途ヲ講セサルヘカラスト信シ申候是レ當人ノ篤行ヲ顯揚スルト同時ニ一ニハ倍々國民ノ忠愛心ヲ鼓舞セント欲スルニ外ナラス從來右等ニ關シ其折々御申告ヲ得タル者ハ既ニ本社ノ記録ニ存シ置キ候得共自然脫漏ノ懸念ヲ免レス候ニ付猶一纏御蒐錄來ル十二月廿日迄ニ以後ハ其時々漏ナク御通報相成候様致度此段得貴意ヲ免レス追テ當人ノ事蹟ハ可成詳細ニ御取調且其住所族籍職業氏名年齢并ニ入社若クハ寄附ノ年月日等ヲ必ス御附記相成度此段申添候也

◎第四節 弔 慰

●功勞者及職員死亡弔慰方法

明治三十年五月廿九日
文甲第一七四號(本社)

通 牒

本社ノ功勞者及職員ニシテ死亡ノ者弔慰法別紙ノ通り一定ニ付テハ支部下ノ功勞者及現職員死亡ノ際ハ速ニ本社ニ御申報相成候様致度此段御通知申進候也
再伸現職員死亡ニ對スル追謝狀ハ従前ノ通り御承知相成度隨テ本文申報ハ社員死亡及職員死亡ノ申告トハ別異ニ御差出ノコトニ御承知有之度候也(追謝狀ハ明治四十一年五月廿九日(内局第一〇九號)ヲ以テ廢止)

弔慰方法

第一 功勞者及現職員死歿ニ際シ弔慰ノ方法ヲ二類ニ分ツコト左ノ如シ

第一類

- 一 本社長ノ名ヲ以テ弔詞ヲ贈ル事
但功勞者ニテ殊ニ小歴ノ記スヘキモノアルトキハ弔慰中ニ記入ノ事
- 一 右用紙ハ鳥ノ子局紙ヲ用ユル事
- 一 文例ハ大凡別紙甲ニ據ル事

第二類

- 一 本社長ノ名ヲ以テ弔詞ヲ贈ル事
- 一 右用紙ハ奉書半切ヲ用ユル事

- 一 文例ハ大凡別紙乙ニ據ル事
- 第二 第一類ノ弔意ヲ表スルモノハ生前左ノ資格ヲ有スルモノトス
 - 一 名譽社員
 - 一 有功章佩用者
 - 一 本社ノ理事員(特選幹事共)
 - 一 同常議員
 - 一 同會計監事
 - 一 病院長
 - 一 同支部長
 - 一 支部副長
- 第三 第二類ノ弔意ヲ表スルモノハ左ノ資格ヲ有スルモノトス
 - 一 特別社員
 - 一 本社主事(名譽職ニ限ル)
 - 一 病院幹事養成係長及各主幹(名譽職ニ限ル)
 - 一 支部幹事
 - 一 同會計監事
 - 一 同委員部
 - 一 同商議員
 - 一 同主事(名譽職ニ限ル)
- 第四 前條資格者ノ外看護員養成委員長及教員等ニシテ名譽職タルモノ及ヒ準備醫員ニシテ醫長ノ任

アルモノ等死歿ノトキハ其功勞ノ如何ヲ考ヘ詮議ノ上第一類第二類ノ弔意ヲ表スルコトヲ得又第二類ニ該當スルモノト雖モ本社ノ創業ニ功勞アルモノノ如キハ特ニ詮議ノ上第一類ニ準シ又ハ別ニ弔祭料ヲ贈ルコトヲ得

甲文例
 本社ハ佩有功章特別社員位勳功爵某君ノ訃音ニ接シ哀悼ニ堪ヘス君ハ……………
 ………………(小歴ノ記スヘキノアレハ之ニ記ス)今遠逝ヲ聞キ誠ニ痛惜ノ至トス仍
 ナ社員何十餘萬人ニ代リテ恭シク弔詞ヲ呈ス
 明治 年 月 日

日本赤十字社長 伯爵 佐野 常民

乙文例
 本社ハ某支部(某委員長)特別社員位勳功姓名ノ遠逝ヲ聞キ哀悼ノ情ニ堪ヘス爰ニ社員何十餘萬人ニ代リ弔詞ヲ贈ル
 明治 年 月 日

日本赤十字社長 伯爵 佐野 常民

●弔慰方法中ノ弔詞ハ支部ニ於テ調製及文例ノ件

明治三十三年三月九日
文甲第一〇六號(社長)

通牒

本社職員來ハ功勞アル社員死亡ノ節本社ヨリ弔詞送附ノ儀ニ付テハ三十年五月文甲第一七四號ヲ以テ御通牒致候處右ハ埋極前弔詞ヲ贈ル方遺族ノ感情上一層ノ厚キニ可至トノ聞ヘモ有之候ニ付今般詮議ノ上弔慰方法中ノ資格アルモノ死去ノ際ハ其文例ニヨリタル弔詞ヲ支部ニテ調製直ニ贈與ヲ得ル事ニ相定候間右様御承知相成度尤此場合ハ事後死亡申告書ト共ニ第一類ハ其弔詞寫第二類ハ贈付ノ日付等御報告相成候儀ト御承知有之度此段御通牒申進候也

追テ本文第一類ノ弔詞中小歴御取調上ノ爲參考二三ノ文例御廻シ申候條宜敷御參考被下可成簡單ニ御取調ノ事ニ御承知將弔詞中記入ノ社員人員ハ最近赤十字雜誌中ニ掲タルモノヲ採用ノ事ニ致度此段申進候也

金壹千圓寄贈者ニテ本社ノ職員

弔詞案

本社神奈川縣支部商議員佩有功章特別社員從五位勳四等原善三郎君遠逝セラレ君ハ風ニ本社ノ主旨ヲ協贊シ特ニ社費ヲ補助セラレタル篤志者ナルイミナラス本社神奈川縣支部商議員トシテ社業ニ補益ヲ與ヘラルル事尠カラス

介計者ニ接シ痛惜ノ至リニ堪ヘス仍テ社員五十七萬餘人ニ代リ恭シク弔詞ヲ呈ス

明治三十二年二月十日

日本赤十字社長 伯爵 佐野 常民

本社ノ職員

案

本社宜蘭支部副長正六位勳六等石森吉猶君遠逝セラ
君ハ宜蘭支部副長ヲ以テ本社ノ爲メ盡瘁セラレ支部事業ヲシテ現下ノ狀況ニ進マシメタルハ與テ力アリトス

今ヤ其訃音ニ接シ誠ニ痛惜ノ至リニ堪ヘス仍テ社員五十七萬餘人ニ代リ恭シク弔詞ヲ呈ス

明治三十二年三月二十九日

日本赤十字社長 伯爵 佐野 常民

金壹千圓ノ寄贈者

案

本社佩有功章特別社員杉井定吉君遠逝セラ
君ハ夙ニ本社ノ主旨ヲ協賛シ特ニ社資ヲ幫助セラレタル篤志者ニシテ其功績ハ蓋シ鮮小ニアラストス
今其訃音ニ接シ誠ニ痛惜ノ至リニ堪ヘス仍テ社員五十八萬餘人ニ代リ恭シク弔詞ヲ呈ス

明治三十二年四月十四日

日本赤十字社長 伯爵 佐野 常民

元ノ職員ニシテ有功章佩用者

案

本社佩有功章特別社員從四位勳二等三間正弘君逝去セラ
君ハ往年本社地方委員總長及支部長ノ職ヲ以テ本社ノ爲メ盡瘁セラレル所アリ其功績ハ決シテ尠小ナラストス

今ヤ其訃音ニ接シ誠ニ痛惜ノ至リニ堪ヘス仍テ社員五十九萬餘人ニ代リ恭シク弔詞ヲ呈ス

明治三十二年六月五日

日本赤十字社長 伯爵 佐野 常民

●職員又ハ社員死亡申告ノ際弔詞寫及弔詞贈付ノ日付等報告廢止並同申告書ニハ職名及社員資格併記ノ件

大正八年七月廿一日
社第二六六號(社長)

通牒

本社職員又ハ功勞アル社員ニシテ死亡ノ場合贈與ノ弔詞ハ當該所管部ニ於テ調製贈付シ事後死亡申告ト共ニ第一類ハ弔詞寫、第二類ハ贈付ノ日付等報告可相成旨明治三十三年三月文甲第一〇六號及通牒候處右報告ノ義ハ自今之レヲ廢止ス又死亡申告書ハ職員、社員各別紙ニ申告スヘキ從來ノ規定ナルモ今後ハ職員ニシテ特別社員以上ノモノハ其職名及社員資格ヲ一紙ニ併記シ申報有之度此段及通牒候也
追テ特別社員以上ノ社員以外ノ職員死亡申告書並社員取扱規程第六條三項之取扱ハ從前通りト御承知有之度爲念申添候也

第五章

救護

Faint, illegible text within a rectangular border on the right page.

行現 日本赤十字社例規類集第五章目次

○第五章 救護

◎第一節 戰時救護	
● 日本赤十字社戰時救護規則	二七九
● 日本赤十字社戰時救護規則施行手續	二九五
● 日本赤十字社救護團體分擔表	三一五
● 救護書記ニ救護看護人長ヲ充ツル場合取扱方ノ件	三二一
● 救護團體編成名簿並救護員戰時名簿	三二三
● 戰時準備事務及救護員名簿取扱心得	三二七
◎第二節 災害救護	
● 日本赤十字社災害救護規則	三三三
● 天災救護實施ノ場合他管救護員ヲ使用スルコトヲ得ル件	三四一
● 災害救護施行狀況寫真撮影方ノ件	三四三
◎第三節 結核豫防撲滅事業	
● 結核豫防撲滅準則	三四五
● 結核患者治療成績報告ニ關スル件	三五一
● 早期診斷患者區別記載方ノ件	三五三
● 小學校教員ノ結核患者記載方ノ件	三五五
● 結核豫防撲滅事業年報記載事項ノ件	三五七

○第五章 救護

○第一節 戰時救護

●日本赤十字社戰時救護規則

改正 ●明治四十四年八月一日
本達 甲 第一〇號

明治四十一年十一月二十六日
本達 甲 第一〇三號

日本赤十字社戰時救護規則陸軍大臣海軍大臣ノ認可ヲ得別冊ノ通改正ス
(別冊) 日本赤十字社戰時救護規則

目次

- 第一章 總則
- 第二章 救護部及救護團體ノ編制、任務
 - 甲 救護部
 - 乙 救護團體
 - 其一 救護班
 - 其二 (削除)
 - 其三 病院船
 - 其四 病院列車
- 第三章 救護團體ノ箇數
- 第四章 救護員

第五章 救護員ノ資格

第六章 救護員ノ職務

其一 救護理事首長

其二 救護理事長、救護理事副長

其三 救護理事、救護副理事

其四 救護警長

其五 救護醫員

其六 救護調劑員

其七 救護看護婦監督

其八 救護書記、救護調劑員補以下

第七章 救護部及救護團體ノ編成、解散

第八章 殊別記章

第九章 救護團體ノ點發

第十章 材料

第十一章 寄贈品

第十二章 雜則

附則

日本赤十字社戰時救護規則

第一章 總則

第一條 本社ノ戰時救護事業ハ西曆千九百六年七月六日瑞西國ジュネヴァニ於テ各締盟國ノ全權委員カ

記名調印シタル戰地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ狀態改善ニ關スル條約及千八百九十九年七月二十九日
日和蘭國海牙ニ於テ各國政府ノ間ニ協定セル千八百六十四年八月二十二日ジュネヴァ條約ノ原則ヲ海
戰ニ應用スル條約及陸戰ノ法規慣例ニ關スル條約ノ主義ニ從テ之ヲ行フ

第二條 戰時救護事業ハ戰時又ハ事變ニ當リ陸軍大臣海軍大臣ノ命ヲ受ケ或ハ認可ヲ得テ之ヲ實施ス

第三條 戰時救護事業ハ社長之ヲ統轄ス

第四條 戰時救護事業ハ救護部及左ニ列記スル救護團體ヲ以テ之ヲ執行ス

一 救護班

二 (削除)

三 病院船

四 病院列車

第五條 救護部及救護團體ニハ總テ日本赤十字社ノ名ヲ冠ス

第六條 救護團體ノ勤務ハ所屬官司ノ指揮及監督ノ下ニ在リテ陸海軍戰時衛生勤務ノ規定ニ從フ

第七條 平時本社ノ本部及支部ニ於テ分擔スヘキ救護團體ノ數及戰時救護ノ準備計畫ニ關スル規程ハ

別ニ定ムル所ニ據ル

第八條 社長ハ毎年九月三十日迄ニ翌年四月一日ヨリ滿一箇年間ニ對スル戰時救護準備報告書ヲ作り

陸軍ニ對スルモノハ陸軍大臣ニ海軍ニ對スルモノハ海軍大臣ニ提出ス

第二章 救護部及救護團體ノ編制、任務

甲 救護部

第九條 救護部ハ本部、支部、派出所ヨリ成ル其ノ編制ハ第一表ノ如シ

前項ノ支部、派出所ハ必要ニ應シ之ヲ置ク但シ其ノ稱呼ハ救護部某地支部又ハ救護部本部某地派出

所、救護部某支部分地派出所ト稱ス

第十條 救護部本部ハ救護ニ關スル諸般ノ事務ヲ掌理シ社長ノ指揮ヲ受ケ本部長之ヲ統理ス

本部ニハ救護及經理ノ二掛ヲ置キ經理掛ニ材料庫ヲ屬ス

第十一條 支部分、派出所ハ前條第一項ノ事務ヲ分掌シ所屬上長ノ指揮ヲ受ケ支部分長、派出所長之ヲ處理ス

第十二條 救護部ハ情況ニ依リ之ヲ置カスシテ本社ノ本部ニ於テ直ニ其ノ事務ヲ處理スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テ必要アルトキハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ認可ヲ得テ理事員一名又ハ數名ヲ派遣シ救護團體ノ勤務、給與其ノ他ノ事項ヲ處理セシムルコトアルヘシ

乙 救護團體

其一 救護班

第十三條 救護班ノ編制ハ第二表ノ如シ但シ社長ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ命ヲ受ケ或ハ認可ヲ得テ其ノ編制ヲ變更スルコトヲ得

救護班ノ稱呼ニハ平時定ムル番號ヲ用ウ但シ之ヲ二分シタルトキハ其ノ班長ノ屬スルモノヲ甲半部他ヲ乙半部ト稱ス

第十四條 看護婦組織ノ救護班二箇以上一地方ニ派遣スルトキハ其ノ場合ニ依リ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ認可ヲ得テ救護看護婦監督ヲ派遣スルコトアルヘシ

第十五條 救護班ハ陸海軍ノ病院、病院船、病院列車ノ勤務及患者護送ノ勤務ヲ幫助ス

第十六條 戰地ニ於ケル救護班ノ作業ハ兵站管區内ニ於テ行フヲ例トス但シ特ニ兵站管區ノ前方ニ作業ヲ命セラレタルトキハ此ノ限リニ在ラス

其二 (削除)

第十七條 (削除)

第十八條 (削除)

其三 病院船

第十九條 病院船ノ編制ハ第四表ノ如シ但シ社長ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ命ヲ受ケ或ハ認可ヲ得テ其ノ編制ヲ變更スルコトヲ得

病院船ノ稱呼ハ病院船何九ト稱ス

第二十條 病院船ハ陸海軍傷病者及難船者ノ收療及輸送勤務ヲ幫助ス

第二十一條 病院船ノ室別及艙裝ニ關スル規定ハ別ニ定ムル所ニ據ル

其四 病院列車

第二十二條 病院列車ノ編制ハ第五表ノ如シ

第二十三條 病院列車ノ任務ハ專ラ安臥ヲ要スヘキ陸海軍傷病者ノ鐵道輸送勤務ヲ幫助ス

第二十四條 病院列車ノ輛數及其ノ設備ニ關スル規定ハ別ニ定ムル所ニ據ル

第三章 救護團體ノ箇數

第二十五條 救護班ハ陸軍ニ對シテハ百六十七個(看護婦組織百二十八個看護人組織三十九個)海軍ニ對シテハ八個(看護婦組織)トス

第二十六條 (削除)

第二十七條 病院船ハ陸海軍ニ對シテ二隻トス

第二十八條 病院列車ハ陸軍ニ對シテ一列車トス

第四章 救護員

第二十九條 救護員ハ之ヲ分テ理事員、醫員、救護調劑員、救護看護婦監督、救護書記、救護調劑員

補、救護看護婦長、救護看護人長、救護看護婦、救護看護人トス

第三十條 理事員ハ之ヲ分テ救護理事首長、救護理事長、救護理事副長、救護理事、救護副理事トス
醫員ハ之ヲ分テ救護醫長、救護醫員トス

第五章 救護員ノ資格

第二十二條 救護員タル者ハ帝國ノ臣民ニ限ル但シ社長ノ稟申ニ依リ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ認可ヲ得タル者ハ此ノ限りニ在ラス

第二十三條 救護員ハ一定ノ救養アル者ニ非サレハ使用スルコトナシ

第二十四條 救護員陸海軍ノ規律ヲ守ラス又ハ命令ニ服スルノ義務ヲ缺キタルトキハ陸海軍ヨリ相當ノ處分ヲ受クルコトアルヘシ

第六章 救護員ノ職務

其一 救護理事首長

第三十五條 救護理事首長ハ救護本部長トシテ社長ノ意圖ヲ受ケ救護團體ヲ指揮シ救護員勤務ノ監督其ノ他救護ニ關スル事務ヲ總理ス

第三十六條 救護理事首長ハ大本營ノ令下ニ派遣セル救護團體ノ衛生勤務ニ關シテハ陸軍ニ在リテハ野戰衛生官海軍ニ在リテハ海軍醫務部長其他ニ在リテハ陸軍省醫務局長又ハ海軍省醫務局長ノ指揮ヲ受ク

其二 救護理事副長

第三十七條 救護部本部ノ主管タル救護理事長、救護理事副長ハ救護部本部長ニ隸シ部員以下ヲ監督

シ分掌ノ事務ヲ處理ス

第三十八條 救護部ノ支部長タル救護理事長、救護理事副長ハ所屬兵站監又ハ其ノ他ノ所屬官司ノ令下ニ在リテ所屬上長ノ指揮ヲ受ケ所轄救護團體ヲ指揮監督シテ部務ヲ處理ス衛生勤務ニ關シテハ當該軍醫部長(海軍ニ在リテハ當該鎮守府軍醫長)ノ指揮ヲ受ク

其三 救護理事、救護副理事

第三十九條 救護部本部及救護部支部ノ部員タル救護理事ハ上長ノ命ヲ受ケ分擔ノ事務ヲ掌理ス

第四十條 救護部本部及救護部支部ノ派出部長タル救護理事ハ所屬官司ノ令下ニ在リテ所屬上長ノ指揮ヲ受ケ關係ノ救護團體ニ關スル事務ヲ掌理ス衛生勤務ニ關シテハ當該軍醫部長(海軍ニ在リテハ當該鎮守府軍醫長)又ハ病院長軍醫官ノ指揮ヲ受ク

第四十一條 (削除)

第四十二條 救護部本部及救護部支部ノ部員タル救護副理事ハ上長ノ命ヲ受ケ分擔事務ヲ掌リ救護團體ニ屬スル救護副理事ハ所屬上長ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

其四 救護醫長

第四十三條 救護醫長ハ病院船又ハ病院列車ノ屬スル官司ノ令下ニ在リテ所屬上長ノ指揮ヲ受ケ救護醫員以下ノ勤務ヲ監督シ其ノ病院船又ハ病院列車ノ事務ヲ處理ス衛生勤務ニ關シテハ所屬軍醫官ノ指揮ヲ受ク

其五 救護醫員

第四十四條 病院船、病院列車ノ救護醫員ハ醫長ノ指揮ヲ受ケ患者ノ治療其ノ他ノ衛生事務ヲ掌リ救護看護婦長、救護看護人長以下ノ勤務ヲ監督ス

第四十五條 救護班長タル救護醫員ハ救護班ノ屬スル官司ノ令下ニ在リテ所屬上長ノ指揮ヲ受ケ救護

調劑員以下ノ勤務ヲ監督シ其ノ班ノ事務ヲ處理ス衛生勤務ニ關シテハ所屬病院長、軍醫官ノ指揮ヲ受ク

其六 救護調劑員

第四十六條 救護調劑員ハ所屬上長ノ指揮ヲ受ケ調劑及衛生材料ノ出納保管ヲ掌リ病院船ニ在リテハ醫長ノ命ヲ受ケ救護調劑員補及磨工ノ勤務ヲ監督ス

其七 救護看護婦監督

第四十七條 救護看護婦監督ハ所屬上長ノ命ヲ受ケ救護看護婦長以下ノ勤務ヲ監督ス

其八 救護書記、救護調劑員補以下

第四十八條 救護書記、救護調劑員補以下ノ職務ハ別ニ定ムル所ニ據ル

第七章 救護部救護團體ノ編成、解散

第四十九條 救護部及救護團體ノ編成、解散ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ命ヲ受ケ或ハ認可ヲ得テ社長之ヲ行フ

第五十條 社長救護部及救護團體ヲ編成シタルトキハ編成名簿及救護員戰時名簿ヲ作り之ヲ救護部本部長及當該團體長ニ交付スヘシ

第五十一條 社長ハ前條ノ編成名簿ニ依リ臂章及認識證明書ノ番號並職氏名ヲ記載シタル名簿ヲ作り之ヲ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ届出ヘシ

第五十二條 救護部及救護團體ヲ解散シタルトキハ社長ハ其ノ都度陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ届出ヘシ

第五十三條 救護事業終了後社長ハ其ノ顛末及意見ヲ記載シテ之ヲ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ提出ス

第八章 殊別記章
第五十四條 救護員ニハ白地赤十字ノ臂章ヲ左上膊ニ裝著セシメ材料ニハ其ノ容器梱包ニ白地赤十字

ノ徽章ヲ附ス

第五十五條 社長ハ救護部及救護團體ノ編成ニ際シ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ臂章及認識證明書ヲ請求ス

救護部及救護團體ヲ解散シタルトキハ社長ハ其ノ事由ヲ具シテ前項ノ臂章及認識證明書ヲ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ還納ス

第五十六條 社長ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ヨリ下付セラレタル臂章及認識證明書ヲ救護員ニ交付ス

第五十七條 本社職員ニシテ救護事業ニ關シ戰地ニ入ル者ニモ亦前三條ヲ準用ス

第五十八條 臂章及認識證明書ハ留守師團及要塞、鎮守府等ニ配屬セラレタル救護員ニ對シテハ場合ニ依リ社長ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ認可ヲ得テ之ヲ交付セサルコトヲ得救護部ノ職員ニシテ戰地ニ入ラサル者亦同シ

第九章 救護團體ノ點發

第五十九條 陸軍ニ要スル救護班ノ點發ハ之ヲ要スル動員師團一部ノ動員ノ師管近衛師團ハ第一師管、臺灣内ニ在ル救護班ヲ先ニシ若其ノ師管内ニ於テ點發シ能ハサルトキハ其ノ隣接師管内ノ救護班ニ及ホスヘシ

海軍ニ要スル救護班ノ點發ハ其ノ鎮守府所在地支部ノ救護班ヲ先ニシ若一鎮守府ニ數箇ノ救護班ヲ要スルトキハ他ノ鎮守府所在地支部ノ救護班ニ及ホスヘシ

社長ハ必要ニ應シ救護班點發ノ特別指定ヲ爲スコトアルヘシ

第六十條 病院船、病院列車ノ點發ハ社長之ヲ指定ス
第六十一條 點發後ノ救護團體ニシテ交代ノ必要ヲ認メタルトキハ社長陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ認可ヲ得テ之ヲ行フコトヲ得

前項ニ依リ交代スヘキ團體ハ社長之ヲ指定ス

第十章 材料

第六十二條 救護部及救護團體ノ材料ハ之ヲ分テ衛生材料、普通材料ノ二種トス

衛生材料ハ器械、藥品、滋養品、治療用消耗品、患者被服寢具及患者運搬具ヲ謂フ

普通材料ハ事務用品、救護員貸與品、救護員給與品、天幕、食器、庖厨具及雜品ヲ謂フ

第六十三條 救護團體ニ要スル材料ノ品目及其ノ定數ハ陸軍大臣、海軍大臣ノ認可ヲ得テ社長之ヲ定ム

第六十四條 救護團體作業中補充ヲ要スル藥品、滋養品、治療用消耗品及患者運搬具ハ所屬官司ニ請求ス陸海軍ノ規定ニ依ル記録報告類ノ用紙亦同シ

第六十五條 救護團體ハ陸海軍及本社規定以外ノ衛生材料ヲ使用スルコトヲ得ス

第十一章 寄贈品

第六十六條 本社ハ戰時又ハ事變ニ於テ傷病者及救護員ニ對シ篤志者ノ寄贈品ヲ收受ス

第六十七條 前條ニ掲クル物品ノ種類及取扱ノ方法ハ陸軍大臣、海軍大臣ノ認可ヲ得テ社長之ヲ定ム

第十二章 雜則

第六十八條 救護理事首長ハ上奏ヲ經救護理事長、救護理事副長、救護醫長ハ陸軍大臣、海軍大臣ノ認可ヲ得テ之ヲ任命又ハ囑託ス其ノ他ノ救護員ノ任命方法ハ別ニ定ムル所ニ據ル

第六十九條 救護員召集ニ關スル規定ハ別ニ定ムル所ニ據ル

第七十條 救護員ハ一定ノ俸給ヲ受ク

救護員ノ給與ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ據ル

戰地ニ於ケル宿舍糧食ハ陸海軍ノ支給ヲ受クルヲ例トス戰地以外ニ於ケル宿舍ハ本社ニ於テ準備ス

ルコト能ハサル場合ニ限リ陸海軍ノ支給ヲ受ク

第七十一條 救護員ノ弔慰、扶助、遺族扶助及懲戒ニ關スル規定ハ別ニ定ムル所ニ據ル

第七十二條 救護員服務中傷疾疾病ニ罹リタルトキハ陸海軍ノ治療ヲ受ク

第七十三條 救護員ノ更迭ハ所屬官司ノ承認ヲ得テ之ヲ行フ

第七十四條 救護員ニ關員ヲ生シタルトキハ社長ハ第五十條及第五十一條ノ手續ニ依リ補充ヲ行フ

第七十五條 戰地ニ於ケル救護部救護團體ノ材料及追送品等ノ運搬ハ陸海軍ノ輸送ニ依ル

第七十六條 戰時又ハ事變ニ方リテハ本社各病院ノ全部又ハ一部ヲ陸海軍患者ノ收容ニ供用ス

第七十七條 救護部及救護團體ヨリ發スル電信ハ野戰電信ニ又救護部、救護團體及救護員ヨリ發スル

信書ハ軍事郵便ニ依ルコトヲ得但シ所屬官司ノ證明ヲ受クヘキモノトス

第七十八條 救護上通譯ヲ要スルトキハ所屬官司ニ請フテ通譯者ノ派遣ヲ求メ或ハ陸軍大臣又ハ海軍

大臣ノ認可ヲ得テ特ニ通譯員ヲ派遣スルコトヲ得

附則

第七十九條 本則第三章ニ於テ定メタル救護團體ノ箇數ハ本社資力ノ増進ニ應シ漸ヲ以テ之ヲ充實ス

第八十條 戰時又ハ事變ニ方リテ地方支部ハ戰地ニ非サル碇泊場又ハ停車場ニ患者休憩所ヲ置クコトヲ得

第八十一條 本則ニ依リテ準備シタル人員材料ハ天災事變ノ救護ニ之ヲ使用スルコトヲ得

第一表 (其一)

救護部 本部 編制	
部	定
長	救護理事首長
員	

護	調劑員	一
救護	看護人	二〇
救護	看護人	二
救護	看護人	一
計		二五
		(内組長四)

- 一 救護調劑員ハ場合ニ依リ之ヲ置カサルコトアルヘシ
- 二 救護部本部派出所又ハ救護部支部若ハ同支部派出所在地ニ於ケル救護班ノ救護書記ノ職務ハ該支部又ハ派出所ノ救護書記ヲシテ兼勤セシムルコトアルヘシ
- 三 看護婦組織ノ救護班ニハ陸海軍官司ノ認可ヲ得テ使丁若干名ヲ配屬スルコトアルヘシ
- 四 救護書記ノ職務ハ救護看護人長ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第三表 (削除)

第四表 病院 船 編 制

救護	調劑員	一
救護	看護人	二〇
救護	看護人	二
救護	看護人	一
計		五〇
		(内組長一〇)

- 一 定員ノ外雜役夫十名乃至十五名及剃夫一名洗濯夫二名又ハ三名ヲ乗組マシム
- 二 救護書記、救護調劑員補ノ職務ハ救護看護人長ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得
- 三 救護看護人ハ磨工ノ職務ヲ執ル

第五表

病院 列車 編 制

救護	調劑員	一
救護	看護人	二〇
救護	看護人	二
救護	看護人	一
計		二八
		(内組長四)

- 一 定員ノ外厨夫若干名ヲ乗組マシム
- 二 救護書記ノ職務ハ救護看護人長ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

●日本赤十字社戰時救護規則施行手續

改正 ●明治四十四年八月一日
本達 乙第四號

明治四十三年六月二十日
本達 乙第五號

日本赤十字社戰時救護規則施行手續別冊ノ通改正又
(別冊) 日本赤十字社戰時救護規則施行手續

目次

- 第一章 救護部
- 第二章 救護團體
 - 其一 救護班
 - 其二 (削除)
 - 其三 病院船
 - 其四 病院列車
- 第三章 救護團體ノ編成解散及補充
- 第四章 救護書記以下ノ職務
 - 其一 救護書記、救護調劑員補、救護看護婦長、救護看護人長
 - 其二 救護看護婦、救護看護人
- 第五章 經理
- 第六章 材料ノ補充及輸送
- 第七章 寄贈品
- 第八章 報告

第九章 雜則

日本赤十字社戰時救護規則施行手續

第一章 救護部

第一條 救護本部ノ事務分掌ハ左ノ如シ

救護掛ハ編成、勤務、補充、解散、人事、文書ノ往復發送、報告、記録ニ關スル事項其ノ他經理掛ニ屬セサル事項ヲ掌ル

經理掛ハ非常部會計ニ屬スル出納、購買、給與、材料、寄贈品及材料庫其ノ他經理ニ關スル事項ヲ掌ル

第二條 救護部支部ハ所轄救護團體ノ勤務、補充、人事、報告及非常部會計ニ屬スル出納、購買、給與、材料、寄贈品等ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條 救護部ノ救護員及材料ノ取扱ハ救護團體ノ規定ヲ準用ス

第二章 救護團體

其一 救護班

第四條 救護班ハ陸軍ニ在リテハ陸軍大臣ノ指示ニ依リ配屬セラレタル所屬官司、海軍ニ在リテハ鎮守府ノ管理ヲ受ク

其二 (削除)

第五條 (削除)

其三 病院船

第六條 病院船ハ陸軍ニ在リテハ運輸通信長官ノ指定セル碇泊場司令部、海軍ニ在リテハ艦隊司令部又ハ鎮守府ノ管轄ニ屬ス

第七條

病院船ニハ事務室、病室内科、外科、傳染病、及精神病ニ區別ス、手術室、屍室、藥室、「エツキス」光線器械室、病理試驗室、蒸汽消毒室及材料倉庫等ヲ設ク

第八條

病院船ハ「ジェネヴァ」條約ノ原則ヲ海戰ニ應用スル條約ノ規定ニ依リ左ノ艦裝ヲ爲シ書類ヲ備フ

一、病院船ハ船體ノ外部ヲ白色ニ塗リ幅約一「メートル」半ノ赤色橫筋ヲ施シテ之ヲ標識スヘシ附屬ノ汽艇及端舟モ亦之ニ準ス

二、病院船ハ國旗ヲ掲クル外白地赤十字旗ヲ大橋頭ニ掲クヘシ

三、帝國政府ヨリ交戰國ニ本船ノ船名ヲ通告シタル文書ノ寫

四、陸軍又ハ海軍官司ヨリ下附ノ艦裝證明書

五、陸軍又ハ海軍官司ヨリ航海毎ニ下附ノ航海訓令書

第九條 病院船ハ難船者ヲ救助スルニ方リ交戰動作ニ妨ケヲ爲スヘカラス

第十條 病院船航海中一方ノ交戰國軍艦ニ逢ヒタルトキハ「ジェネヴァ」條約ノ原則ヲ海戰ニ應用スル條約第四條ノ範圍内ニ於テ該軍艦ヨリ發スル命令及處分ニ從フモノトス

第十一條 病院船ハ交戰國軍人軍屬及物品ノ輸送書類ノ託送其ノ他交戰ニ關スル行爲ヲ爲スヘカラス

第十二條 病院船ハ其ノ勤務ニ妨ケナキ限リ救護材料、寄贈品及救護員用物品ヲ搭載運搬スルコトアルヘシ

其四 病院列車

第十三條 病院列車ハ運輸通信官衙、兵站監部又ハ占領地總督部ノ管轄ニ屬ス

第十四條 病院列車ノ組織其ノ他ノ規定ハ別ニ定ムル所ニ據ル

第三章 救護團體ノ編成解散及補充

第十五條 救護團體ノ編成及解散ハ社長其ノ所管ニ從ヒ本部ニ在リテハ救護部本部長支部ニ在リテハ當該地方支部長ヲシテ其ノ事務ヲ取扱ハシム

第十六條 救護員ノ補充ハ其ノ事故者所管ノ救護員ヲ以テ之ニ充ツ若シ其ノ所管ニ於テ得員シ能ハサル場合ハ他管ニ及ホスモノトス

第四章 救護書記以下ノ職務

其一 救護書記、救護調劑員補、救護看護婦長、救護看護人長

第十七條 救護書記ハ上長ノ命ヲ受ケ庶務、會計及普通材料出納保管ノ勤務ニ服ス

第十八條 救護調劑員補ハ上長ノ命ヲ受ケ調劑ヲ幫助シ且衛生材料出納保管ノ勤務ニ服ス

第十九條 救護看護婦長、救護看護人長ハ上長ノ命ヲ受ケ組長ヲ指揮シ救護看護婦、救護看護人ノ勤務ヲ監視シ且看護ノ勤務ニ服ス

第二十條 (削除) 其二 救護看護婦、救護看護人

第二十一條 救護看護婦、救護看護人ハ上長ノ命ヲ受ケ看護ノ勤務及病室内ノ雜務ニ服ス

組長ヲ命セラレタル者ハ前項ノ外救護看護婦長、救護看護人長ノ指揮ヲ受ケ組員ノ勤務ヲ監視ス

第二十二條 磨工ヲ命セラレタル救護看護人ハ上長ノ命ヲ受ケ治療器械ノ研磨、修理、保存等ノ勤務ニ服ス

第二十三條 (削除)

第五章 經理

第二十四條 救護ニ關スル經費ハ救護部本部長之ヲ處理ス

第二十五條 救護團體ニ屬スル經費ハ救護部支部長派出所長又ハ地方支部長ヲシテ其ノ分派出納ヲ爲

サシム

救護團體ノ勤務地、救護部ノ所在地ト遠隔シ又ハ交通不便ナル場合ハ必要ニ應シ當該團體長ヲシテ救護費ノ分派出納ヲ爲サシム此ノ場合ハ二箇月以内ノ所要金額ヲ限度トシ救護部本部長又ハ救護部支部長ニ於テ必要ト認ムル諸費ヲ概算シテ前渡スルモノトス

第二十六條 救護團體員ニ給與スヘキ金錢物品ハ當該團體長其ノ所轄救護部ニ請求シテ之ヲ受領シ各自ニ交付スルモノトス

第二十七條 分派出納ヲ掌ル者ハ前渡現金ヲ所定ノ金櫃ニ格納シ之ヲ保管スルノ責ニ任ス若其ノ所在地ニ確實ナル銀行アルトキハ其ノ保管ヲ之ニ委託スルモノトス

第二十八條 現金ヲ金櫃ニ格納シ保管スルトキハ金櫃出納簿ヲ備ヘ出納毎ニ其ノ金額ヲ記入捺印スヘシ

第二十九條 金櫃ニハ現金ノ外現金ニ代ハルヘキ書類、出納簿ヲ格納スヘシ

第三十條 金錢ニ係ル貴重書類ノ發送ハ書留郵便其ノ他確實ナル方法ニ依ルヘシ

第六章 材料ノ補充及輸送

第三十一條 材料ノ補充ハ救護團體ノ請求ニ依リ其ノ所轄救護部ニ於テ之ヲ行フ

第三十二條 前條補充材料ノ請求ハ材料定數表ニ掲クル品目ニ限ル但シ特ニ救護團體ニ備附又ハ救護員ニ貸與、給與セルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三十三條 救護團體ニ於テ材料ノ補充又ハ修理、交換、新調等ヲ要スルモノハ請求傳票ニ品目數量ヲ記載シテ其ノ所轄ノ救護部ニ請求スヘシ但シ戰時救護規則第六十四條ノ材料請求手續ハ當該官司ノ指揮ニ依ルヘシ

第三十四條 材料庫ヲ置カサル救護部支部ニ於テ前條ノ請求傳票ヲ受ケタルトキハ救護部本部又ハ材

料庫ヲ有スル救護部支部ニ移シテ其ノ補給ヲ爲ス但シ請求材料ノ種類ニ依リテハ當該救護部ニ於テ其ノ補給又ハ修理ヲ行フコトアルヘシ

第三十五條 救護團體ニ要スル材料ノ輸送ハ陸軍ニ在リテハ兵站司令部、停車場司令部又ハ碇泊場司令部海軍ニ在リテハ當該官司ノ指揮ニ依ルヘシ

第三十六條 輸送材料ノ梱包重量ハ四貫目、六貫目、十二貫目ヲ以テ標準トス

第三十七條 材料ヲ發送スルトキハ送狀ヲ發シ且電報ヲ以テ届先キノ救護部又ハ救護團體ニ通告スヘシ若之ヲ船舶ニ搭載スルトキハ尙其ノ船名ヲ通告スルモノトス

第七章 寄贈品
第三十八條 寄贈品ノ申込ハ救護部本部ニ於テ直接又ハ地方支部ヲ經テ之ヲ受理ス寄贈者ニ對スル寄贈品ノ受領證書ハ現品ヲ受領スル箇所ニ於テ之ヲ交付ス

第三十九條 寄贈品ハ寄贈ノ目的ニ從ヒ陸海軍傷病者ニ係ルモノハ之ヲ陸軍省又ハ海軍省ニ報告シテ其ノ指揮ヲ受ケ救護員ニ係ルモノハ救護部本部長ニ於テ其ノ配當ヲ指示ス

第四十條 地方支部長寄贈品ノ申込ヲ受ケタルトキハ其ノ申込者ノ本籍、住所、身分、氏名及品目、數量、寄贈ノ目的ヲ記載シテ之ヲ救護部本部ニ通告シ現品ハ申込者ヲシテ救護部本部指定ノ箇所ニ送付セシムルモノトス

前項指定ノ箇所迄ノ運賃ハ寄贈者ヲシテ負擔セシム

第四十一條 前條救護部本部指定ノ箇所ニ於テ寄贈品ヲ受領シタルトキハ其ノ現品ノ價格ヲ評定シテ之ヲ救護部本部ニ報告シ配當命令ヲ受クル迄現品ヲ保管スヘシ

前項ノ現品ハ寄贈品收配簿ヲ備置キ其ノ出納ヲ明ニスヘシ

第四十二條 寄贈品ハ左ニ列記スル帳簿ヲ備ヘ救護部本部ニ於テ之ヲ整理ス

一、寄贈品受付簿

二、寄贈品原簿

三、寄贈品收配簿

第四十三條 寄贈品ノ種類及其ノ取扱ニ關スル方法ハ戰時又ハ事變ニ際シ之ヲ定メ官報及新聞紙ヲ以テ廣告ス

第八章 報告

第四十四條 救護團體定期報告ハ作業報告、醫務報告、事務報告ノ三種トシ順序ヲ經テ救護部本部長ニ提出スルモノトス

第四十五條 作業報告ヲ分テ左ノ四類トス

一、患者報告一號式第

二、患者輸送報告二號式第

三、患者航送報告三號式第

四、救護員患者報告四號式第

第四十六條 醫務報告ヲ分テ左ノ三類トス

一、治病及保健ニ關スル事項

二、看護及護送ニ關スル事項

三、其ノ他ノ醫務ニ關スル必要ノ事項

第四十七條 事務報告ヲ分テ左ノ六類トス

一、救護團體ノ狀況ニ關スル事項

二、人事ニ關スル事項救護員異動報告(樣式第五號)ヲ添付ス

三、給與ニ關スル事項

四、材料及寄贈品ニ關スル事項

五、(削除)

六、其ノ他ノ事務ニ關スル必要ノ事項

第四十八條 作業報告醫務報告ヲ作成シタルトキハ所屬官司ノ査閲ヲ受クルモノトス

第四十九條 定期報告ハ毎月之ヲ作成シ翌月五日迄ニ發送スヘシ但シ患者航送報告ハ一航海毎ニ發送

シ臨時必要ノ事項ハ其ノ都度之ヲ報告スルモノトス

第五十條 陸海軍官司ノ命ニ依リ救護班ノ一部ヲ他ニ分遣シタルトキハ該分遣救護員ヲシテ必要ノ事

項ヲ所屬團體長ニ報告セシムルモノトス

第九章 雜 則

第五十一條 救護部ノ支部、派出所ヲ置キタルトキ及救護團體任地ニ到着シタルトキハ支部長、派出

所長又ハ救護團體長ヨリ救護員ノ職氏名及臂章認識證明書番號ヲ記載シタル名簿ヲ作り之ヲ所屬官

司ニ届出ヘシ爾後異動アルトキ亦同シ

第五十二條 救護部及救護團體ヨリ發スル文書ハ其ノ長ノ名ヲ署スルモノトス但シ事項ニ依リテハ救

護部及救護團體ノ名ヲ以テ發スルコトヲ得

第五十三條 救護部本部ヨリ所屬官司ニ提出スル書類ハ當該官司ノ醫務機關ヲ經由スルモノトス

第五十四條 救護部及救護團體ノ長ハ業務日誌ヲ備ヘ日々ノ事項ヲ記載スルモノトス

第五十五條 救護部及救護團體ノ長ハ救護員戰時名簿ヲ保管シテ本人ノ經歷ヲ記入シ救護員他ニ轉出

スルトキハ其ノ名簿ヲ新所屬ノ救護部又ハ救護團體ノ長ニ送付シ領收證ヲ徵スルモノトス

第五十六條 死亡者及召集解除又ハ解職セラレタル者ノ救護員戰時名簿ハ所屬ノ救護部又ハ救護團體

ノ長ヨリ順序ヲ經テ編成事務ヲ取扱ヒタル救護部本部長又ハ地方支部長ニ返納スヘシ但シ救護部本

部ノモノハ社長ニ返納スルモノトス

第五十七條 救護員傷疾疾病其ノ他事故ニ依リ救護團體ノ編入ヲ解カレタルトキハ該救護員ハ救護部

ノ所屬ト爲シ其ノ救護員戰時名簿ハ所屬團體長ヨリ救護部ノ長ニ送付ス

第五十八條 救護員召集中ハ指定シタル宿舍ニ宿泊スルモノトス但シ内地ニ在リテハ場合ニ依リ自宅

通動ヲ命セララルコトアルヘシ

第五十九條 救護員召集中ハ請願ヲ以テ歸郷スルヲ許サス

第六十條 戰地ニ於テ救護員死亡シタルトキハ所轄救護部ニ通告シ遺骸ハ陸軍又ハ海軍ノ規定ニ準據

シテ之ヲ處置スルモノトス

死者ノ遺髮又ハ遺骨ハ死亡診斷書及遺品目録ト共ニ編成ヲ取扱ヒタル救護部本部又ハ地方支部ニ送

付スヘシ 内地ニ在リテ救護員死亡シタルトキハ所轄救護部ノ指示ヲ受クヘシ

第六十一條 遺品目録ハ關係救護員三名立會ノ上調査作成シ之ニ連署捺印スルモノトス

第六十二條 救護部及救護團體ニ屬スル厨夫、剃夫、洗濯夫、使丁、雜役夫等ニハ一定ノ被服ヲ著用

セシム

富	石	福	秋	山	青	岩	福	宮	長	岐	滋	山	静
山	川	井	田	形	森	手	島	城	野	阜	賀	梨	岡
第百六十五	第百六十五	第百五十五	第百五十五	第百五十五	第百五十五	第百五十五	第百四十五	第百四十五	第百四十五	第百四十五	第百四十五	第百三十五	第百三十五
救救救	救救救	救救救	救救救	救救救	救救救	救救救	救救救	救救救	救救救	救救救	救救救	救救救	救救救
護護護	護護護	護護護	護護護	護護護	護護護	護護護	護護護	護護護	護護護	護護護	護護護	護護護	護護護
班班班	班班班	班班班	班班班	班班班	班班班	班班班	班班班	班班班	班班班	班班班	班班班	班班班	班班班
第百三十一	第百三十一	第百三十一	第百二十九		第百二十八	第百二十七	第百二十七	第百二十六	第百二十五	第百二十四			第百二十三
救護班	救護班	救護班	救護班		救護班	救護班	救護班	救護班	救護班	救護班			救護班

愛	三	奈	朽	茨	千	群	埼	新	長	兵	神		
知	重	良	木	城	葉	馬	玉	湯	崎	庫	奈	川	縣
第百七十七	第百七十四	第百三十三	第百三十三	第百三十三	第百二十二	第百二十二	第百二十二	第百二十二	第百二十二	第百二十二	第百二十二	第百二十二	第百二十二
救救救	救救救	救救救	救救救	救救救	救救救	救救救	救救救	救救救	救救救	救救救	救救救	救救救	救救救
護護護	護護護	護護護	護護護	護護護	護護護	護護護	護護護	護護護	護護護	護護護	護護護	護護護	護護護
班班班	班班班	班班班	班班班	班班班	班班班	班班班	班班班	班班班	班班班	班班班	班班班	班班班	班班班
第百零八	第百二十二	第百二十一	第百二十一	第百十九	第百十八	第百十七	第百十七	第百十七	第百十七	第百十七	第百十七	第百十七	第百十七
救護班	救護班	救護班	救護班	救護班	救護班	救護班	救護班	救護班	救護班	救護班	救護班	救護班	救護班

計	臺	沖	鹿	宮	熊
	灣	繩	兒	崎	本
一 三 六 七 五	第 九 十 八 救	第 九 十 六 救	第 九 十 五 救	第 九 十 三 救	第 九 十 一 救
	護 護 班	護 護 班	護 護 班	護 護 班	護 護 班
	第 百 十 六 救		第 百 三 十 七 救		第 百 十 五 救
	護 班		護 班		護 班

佐	大	福	高	愛	香	德	和	山	廣	岡	島	鳥
賀	分	岡	知	媛	川	島	山	口	島	山	根	取
第 八 十 九 救	第 八 十 七 救	第 百 七 十 五 救	第 八 十 六 救	第 百 八 十 一 救	第 七 十 七 救	第 七 十 七 救	第 百 七 十 五 救	第 百 七 十 七 救	第 百 七 十 七 救	第 百 六 十 五 救	第 百 六 十 六 救	第 百 六 十 六 救
護 班	護 班	護 班	護 班	護 班	護 班	護 班	護 班	護 班	護 班	護 班	護 班	護 班
	第 百 三 十 六 救			第 百 三 十 五 救	第 百 十 三 救	第 百 三 十 四 救		第 百 三 十 三 救	第 百 十 二 救	第 百 三 十 二 救		
	護 班			護 班	護 班	護 班		護 班	護 班	護 班		

● 救護書記ニ看護人長ヲ充ツル場合取扱方ノ件

大正三年九月二十一日
救第九八四號(本社)

通 牒

救護團體編制中ノ救護書記ニ看護看護人長ヲ充フルトキハ救護書記事務取扱ヲ命スル儀ト御承知相成
度此段及御通牒候也

● 戰時準備事務及救護員名簿取扱心得

明治四十二年五月廿七日
救第四四七號(本社)

改正

● 明治四十五年三月十五日
救第二五三號

通牒

戰時準備事務及救護員名簿取扱心得別冊ノ通相定メ候此段及通牒候也

追テ三十九年一ノ一救第一〇〇三號同第八六四號及四十年同第二六九號通牒ハ廢止致候

戰時準備事務取扱

第一 一般要領

- 一 救護團體ノ配屬ハ編成要員ノ充實シタル毎ニ之ヲ行フコト但シ支部ニ在リテハ其ノ都度本部ニ報告スルコト
- 二 救護團體ノ配屬ニ際シテハ救護團體配屬名簿及補充員名簿補充員ニハ事故者ヲ加ヘスヲ調製スルコト但シ補充員名簿ハ團體各別ニ爲スヲ要セス
- 三 支部ハ毎年八月救護團體配屬人員表(別紙様式)ヲ調製シ本部ニ提出スルコト
- 四 誓約年限ナキ救護員ノ配屬ハ必要ニ際シ之ヲ行フコト
- 五 救護團體ノ配屬上必要アル場合ハ救護看護婦長、救護看護人長、各候補生及左記生徒ニ限り其相當職ノ配屬員ニ代用スルコトヲ得
一年六箇月以上ノ養成ヲ受ケタル救護看護婦生徒
五箇月以上ノ養成ヲ受ケタル救護看護人生徒
- 六 本部ハ戰時準備報告書(救護規則第八條ニ依ル)ヲ毎年九月三十日迄ニ調製シ陸海軍大臣ニ提出スルコト
- 七 本部ハ救護員連名簿ニ基キ毎月末日救護員現在人員表本部各支部別ヲ調製スルコト

八 本部ハ豫メ救護部開設準備ノ計畫ヲ定メ諸般ノ整頓ヲ爲シ置クコト

第二 書類

九 左ニ列記スル名簿及諸用紙類ハ常ニ一定ノ場所ニ整頓シ置クコト

(イ) 救護團體配屬名簿

(ロ) 補充員名簿

(ハ) 救護員召集人名簿

(ニ) (削除)

(ホ) (削除)

(ヘ) 救護團體編成名簿

(ト) 召集狀及同封筒

(チ) 救護材料受領證

(リ) 救護員戰時名簿

(ヌ) 身體検査證

(ル) 貸與品受領證

(ヲ) 給與品受領證

(ワ) 召集旅費受領證

十 今後ノ救護實施ニ參考トナルヘキ從來ノ救護ニ關スル書類ハ適宜部門ヲ設ケ之ヲ編綴シテ索引目次ヲ付シ置クコト但シ其ノ書類中分離編綴シ能ハサルモノハ特ニ檢索目錄ヲ付シ置クヲ要ス

第三 材料

十一 配屬救護團體備付材料及現在救護員ニ對スル貸與品、給與品ノ準備過不足表ヲ調製シ置キ爾後

配屬團體及救護員ノ増減毎ニ訂正ヲ加フルコト

十二 材料倉庫ニハ適當ノ場所ニ左ノ二表ヲ揭示シ置クコト

一 救護團體交付材料表

二 救護員交付材料表

十三 醫校及事務行李ニハ其蓋ノ内面ニ内容品ノ目次表ヲ貼付シ置クコト

第四 給與

十四 戰時召集旅費ノ交付方法ヲ豫テ定メ置クコト

十五 戰時召集ノ場合ニ於ケル應召員ノ宿泊所ヲ定メ且其ノ宿泊料ヲモ協定シ置クコト

第五 職員心得

十六 戰時召集事務分擔ヲ定メ各員ヲシテ常ニ心得シメ置クコト

十七 戰時召集實施事務心得ヲ定メ置クコト

十八 戰時召集實施ノ場合ニ於ケル當直員ノ心得ヲ定メ置クコト

第六 雜

十九 召集狀ノ送達方法及配達心得ヲ定メ置クコト

二十 召集救護員ノ身體検査醫員ヲ定メ置クコト

救護員名簿取扱

一 救護員名簿ハ職別席順ニ索引ヲ付シ編冊スルコト

二 誓約滿期、定限年齢、講習又ハ點呼等檢索一覽スヘキ補助簿ヲ調製スルコト

三 他所管内ニ在住スル救護員連名簿ヲ調製シ平時召集委託及其ノ解除年月日召集ニ關スル摘要ヲ其

- ノ都度記入スルコト
- 四 不都合ノ廉ニ依リ解職シタル救護員及不品行怠惰、學業劣等ノ爲メ退學ヲ命シタル生徒ノ人名簿ヲ調製シ置クコト
- 五 履歷書、戸籍謄本、誓約書ノ類ハ各別ニ編綴シテ名簿ト共ニ保存スルコト
- 六 救護員名簿中本社出身後ノ履歷欄ハ左ノ例ニ依リ記入スルコト

記入凡例

何年何月何日何々生徒ニ採用何月何日某支部病院(某支部養成所)ニ入學何年何月何日日本社病院へ實務練習依託何年何月何日卒業何年何月何日何々ニ任用戰時本俸何額支給
 何年何月何日何々候補生ニ採用何月何日日本社病院ニ入學何年何月何日卒業
 何年何月何日何國へ旅行(住所不明)ニ付誓約停止何年何月何日歸朝(住所)届出ニ付停止解除
 何年何月何日演習(講習、點呼)ノ爲メ召集何月何日解散
 何年何月何日病氣(何々事故)ニ依リ充員(補充及點呼、演習、講習)召集不應
 何年何月何日何々災害救護ノ爲メ召集何月何日召集解散(何年何月何日ヨリ何月何日迄何々災害救護ニ從事)
 何年何月何日第何救護班(何々)編成(補充)ノ爲メ召集
 何年何月何日何々ノ爲メ召集解除

注意

- 一 名簿ハ任用書類(履歷書、誓約書、戸籍謄本)ニ據リ記入シ錯誤ナカラシムコトヲ期スヘシ
- 一 褒賞、懲戒、職務起因傷病及本社出身後ノ履歷欄ニハ救護員タル資格ニ對シ生シタル事項ノミヲ記入スルコト但シ本社病院支部病院其ノ他養成所等ノ職員トシテ本社ニ關係アル履歷ハ救護員ノ

補助簿ニ記入シ参考トナスコト

- 一 誓約年限停止等ノモノハ注意ノ爲メ其ノ欄外ニ其ノ大要ヲ朱記スルコト
- 一 救護看護婦、救護看護人ヨリ其ノ長ニ任用シタルトキハ名簿ヲ改メス本社出身後履歷欄ニ其ノ旨ヲ記入シ職名及戰時本俸額ヲ訂正スルコト
- 一 本社出身後履歷欄ノ記入方ハ每事項ノ終ニ朱圈ヲ付シ連續記載スルモノトス

注意

- 一、人員ノ配屬ヲ了セサル團體名ハ本表ニ記入スヘカラス
- 二、増減欄ニハ前年ノ八月ニ比較シタル數ヲ掲ケ補充員及誓約停止者ノ欄ノミ適用ス
- 三、人員ノ配屬ヲ了シタル團體ニシテ人員ニ不足アル場合ハ補充員ノ記入ヲ考充ス
- 四、救護看護婦、救護看護人ノ現在員數ヲシテ備考ニ其

救護團體配屬人員表

明治 年 八月 末日 調

區 別	第 一 救 護 班		第 二 救 護 班		第 三 救 護 班		計	增 減	團 體 編 成 完 結 日 數
	救護員	增減	救護員	增減	救護員	增減			
本社									
某支部									
明治 年 月 日									

●第二節 災害救護

●日本赤十字社災害救護規則

明治四十四年九月十九日
本達 甲 第一八號

日本赤十字社災害救護規則別冊ノ通相定メ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
但シ明治三十七年五月四日本達第一六號日本赤十字社天災救護規則及明治四十三年十月二十七日日本
達乙第七號日本赤十字社臨時救護規程ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

(別冊) 日本赤十字社災害救護規則

第一條 災害救護トハ天災事變其ノ他公衆ノ災害ニ基因スル傷者及病者ヲ救護スルヲ謂フ

第二條 災害救護ハ迅速且懇切ニ應急救護ヲ行フモノトス

第三條 災害救護ハ當該地方ノ支部之ヲ施行ス

災害ノ狀況ニ依リ救護力足ラサルトキハ支部長ハ社長ニ具申シテ援助ヲ求ムルコトヲ得

社長前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ他ノ支部ヲシテ援助セシメ又ハ本部ヨリ援助ス

第四條 災害救護ハ救護所ヲ常設シ又ハ臨時ニ之ヲ設ケテ施行ス但シ必要ニ依リ巡回救護ヲ爲スコト
ヲ得

第五條 災害ノ發生ヲ速知シ救護ノ施行ヲ敏活ナラシムル爲支部長適宜ノ方法ヲ定メ之ヲ社長ニ報告
ス

第六條 救護所ノ定員ハ第一表ニ據ル

第七條 災害救護ハ支部長地方長官ノ依囑ヲ受ケ又ハ地方長官ニ交渉シテ之ヲ施行シ直ニ其ノ旨ヲ社
長ニ報告シ後ニ社長ノ承認ヲ受クヘシ但シ式典、集會等公衆ノ群衆ニ際シ救護ヲ要スル場合ハ支部

長限リ之ヲ施行シ其ノ旨ヲ社長ニ報告ス

救護所ヲ常設スル場合ハ支部長豫メ社長ノ承認ヲ受クルヲ要ス

第八條 支部長救護ヲ施行シタルトキハ其ノ年月日及救護員ノ職別人名ヲ社長ニ報告シ爾後十日毎ニ(常設ノ救護所ヲ除ク)救護狀況ノ報告及患者表ヲ提出ス但シ重要ノ事件ハ即時之ヲ報告ス

第九條 支部長ハ救護結了後十日以内(常設ノ救護所ニ在リテハ毎月)ニ業務報告書ヲ社長ニ提出ス

第十條 業務報告書ニハ左ノ事項ヲ記載ス

一、災害ノ狀況(常設ノ救護所ヲ除ク)

二、作業ニ關スル事項

三、救護員ニ關スル事項

四、材料ニ關スル事項

五、經費及給與ニ關スル事項

六、患者表(様式第一號)

七、藥品及治療消耗品表(様式第二號)

第十一條 支部長救護ヲ施行セムトスルトキハ所管ノ救護員ヲ召集使用ス但シ必要ニ依リ其ノ所管内ニ在住スル他管ノ救護員ヲ使用シ又ハ相當ノ經歷ヲ有スル者ヲ臨時救護員ニ囑託雇用スルコトヲ得

支部病院在職ノ醫員及調劑員ニシテ救護員ニアラサル者ハ臨時救護員ニ充テ實務練習中ノ生徒ハ救護看護婦、救護看護人ニ充ツルコトヲ得

第十二條 救護員ノ召集ハ支部長適宜ノ方法ヲ定メテ之ヲ行フ

第十三條 他管ノ救護員ヲ使用シタルトキハ其ノ旨直ニ所管ノ本部又ハ支部ニ通報シ救護結了シタルトキハ救護員名簿ノ記載ニ必要ナル事項ヲ通報ス

第十四條 救護員ニハ制服ヲ貸與ス但シ臨時救護員ニハ自服(洋服)ヲ使用セシメ附圖ノ徽章ヲ衣ノ右胸上部ニ附ス

第十五條 救護員ノ俸給ハ第二表、旅費ハ第三表ノ範圍内ニ於テ支部長適宜之ヲ定ム其ノ支給方法亦同シ常設ノ救護所ニ要スル救護員ノ給與ハ社長ノ承認ヲ得テ支部長之ヲ定ム

第十六條 救護員諸給與、患者費及雜費ハ救護ヲ施行スル支部ノ經費ヲ以テ之ヲ支辨ス

第十七條 災害救護材料ハ本部及支部ニ於テ準備ス其ノ品目定數ハ社長之ヲ定ム

第十八條 救護員職務ノ爲傷痍ヲ受ケ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル者ノ手當ハ社長之ヲ定ム

第十九條 社長第三條第三項ニ據リ救護ヲ施行スルトキハ本則ヲ準用ス

第一表 救護所定員

職名	定員
救護醫員	二員
救護看護婦(救護看護人)	八員 内組長ニ
計	一〇

一、救護ノ狀況ニ應シ人員ヲ増減シ又ハ救護看護婦、救護看護人ヲ混用スルコトヲ得

二、必要ニ依リ救護調劑員又ハ救護書記、救護看護婦長、救護看護人長ヲ増置スルコトヲ得

職名	俸給	額
第二表		

救護	救護	救護	救護
醫員	調劑員	看護書人	看護婦人
月額	同	同	同
百圓以内	六十圓以内	三十一圓以内	二十二圓以内

一、臨時救護員並生徒ノ俸給ハ本表ヲ準用ス
 二、災害ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ適宜増給スルコトヲ得

第三表 旅費

職名	救護調劑員	救護看護書人	救護看護婦人
鐵道賃	四錢	三錢	三錢
船賃	五錢	四錢	四錢
馬車賃	三十錢	二十五錢	二十錢
宿泊料	二圓	一圓五十錢	一圓
日當	一圓五十錢	一圓	六十錢

- 一、臨時救護員並生徒ノ旅費ハ本表ヲ準用ス
- 二、災害ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ適宜増給スルコトヲ得
- 三、必要ノ場合ハ宿泊料ニ代ヘテ宿舍糧食ヲ給スルコトヲ得

様式第一號ノ一(用紙美濃罨紙)

調査主任 職氏名印

大正何年		自何月何日	至何月何日	病類別	患者數	治癒日數	死亡	未治歸宅	他ノ病院へ轉送	引渡
傳染病	八種傳染病	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他
呼吸器病	循環器病	榮養器病	眼病	運動器病	其他	其他	其他	其他	其他	其他
神經系病	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他
外科	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他
合計	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他



● 災害救護施行狀況寫眞撮影方ノ件

大正二年十月二十二日
救第一〇三七號(本社)

通牒

災害救護施行ニ關スル景況ハ其ノ都度詳細ニ御報告相成居候得共猶其ノ主ナル實況ハ之ヲ撮影シテ保
存シ置ク必要ヲ認メ候間自今該救護御施行作業中主ナル實況ニシテ將來參考ト可相成御見込ノ分ニ限
リ撮影ノ上御送附相成候様致度此段及通牒候也

◎第三節 結核豫防撲滅事務

●結核豫防撲滅準則

大正二年六月十七日
本達 甲 第六號

日本赤十字社結核豫防撲滅準則別冊ノ通相定メ大正二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
(別冊) 日本赤十字社結核豫防撲滅準則

第一條 日本赤十字社ハ第八回萬國赤十字總會決議ノ旨趣ニ基キ結核ノ豫防撲滅事業ヲ實施スル爲ニ本則ヲ設ク

第二條 結核豫防撲滅事業ハ左ノ各號ニ準據シ支部ニ於テ之ヲ施行シ其ノ經費ハ總テ支部ノ負擔トス

一、適當ノ機會ニ於テ講話若ハ印刷物ノ配布ニ依リ結核ノ豫防撲滅ニ關スル智識ノ普及ヲ圖ル

二、支那病院又ハ適當ノ場所ニ診斷所ヲ置キ結核ヲ早期ニ發見シ該患者ニ其ノ攝生及消毒等ノ方法ヲ熟諭シ且治療ヲ要スル者ニハ其ノ旨ヲ諭シ本人ノ希望ヲ酌量シテ相當ノ取扱ヲ爲ス但シ支部病院以外ノ診斷所ニハ日本赤十字社某支部結核患者診斷所タルコトヲ標示スルヲ例トス

三、病院ヲ有スル支部ニ在リテハ其ノ病院ニ結核患者ヲ收療スル爲所要ノ設備ヲ爲ス尙土地ノ狀況ニ由リ特ニ療養所ヲ設備スルコトヲ得

四、病院ヲ有セサル支部ニ在リテハ近接支部病院又ハ地方病院等ニ協商シ入院券ヲ以テ患者ノ收療ヲ依託ス尙土地ノ狀況ニ由リ特ニ療養所ヲ設備スルコトヲ得但シ患者ヲ依託シタル病院ノ病室ニハ日本赤十字社某支部依託患者室タルコトヲ標示スルコトヲ例トス

五、輕症患者ノ爲適當ノ地ヲ選ミ保養所ヲ置キ患者ヲシテ攝養セシメ兼テ適度ノ作業ヲ爲サシムルコトヲ得但シ之ヲ常設スルト否トハ支部ノ適宜トス

様式第四號

大正 年結核患者種別年報

某 支部

考 備	計	區 分		
		肺 結 核	其 他	計
陸軍ヨリ除役セラレタル者				
海軍ヨリ免除セラレタル者				
徴兵(志願兵)検査ノ際結核又ハ其ノ疑似症トシテ斥ケラレタル者				
其 他				
計				

●結核患者治療成績報告ニ關スル件

大正二年十月二日 第九四〇號(本社)

通 牒

陸軍次官ヨリ本社ニ於テ取扱ヒタル結核患者ノ人員及治療成績報告可致旨通牒有之候間結核豫防撲滅準則第十四條一號結核患者豫防撲滅事業年報中ニ別紙記載事項御記入相成度此段及通牒候也

別 紙

考 備	合 計	區 分	患 者		治 療		成 績	
			舊 患 者	新 患 者	治 療 日 數	治 癒 輕 快	死 亡 事 故	後 遺
陸軍ヨリ除役セラレタル者								
陸軍ノ徴兵其他ノ身體検査ニ於テ發見セラレタル者								
海軍ヨリ免除セラレタル者								
海軍ノ志願兵身體検査ニ於テ發見セラレタル者								
計								
計								

注意 調製ノ上ノ注意ハ結核豫防撲滅準則表式第二欄ノ上ニ記載ス

● 小學校教員ノ結核患者記載方ノ件

大正四年十一月廿九日
號外(救護課)

通牒

調査上必要有之候ニ付自今小學校教員ノ結核患者ヲ診療シタルトキハ其ノ實人員並延人員ヲ外來入院ニ區別シ結核患者季報ノ備考ニ御記載相成度尙結核患者種別年報備考ニハ本年一月ヨリノ同患者數ヲ季報ノ通御記載報告相成度候也

●結核豫防撲滅事業年報記載事項ノ件

大正六年一月十日
救第二三號(救護課長)

通牒

拜啓貴部御施設ノ結核豫防撲滅事業ハ可成詳細ナル御報告ヲ得テ之ヲ記録ニ留メ事業施設ノ參考ニ供シ度候間結核豫防撲滅準則様式第一號事業年報中ニ左記事項御收載被下度此段得貴意候也
追テ臨時御報告濟ノ事項モ其概要ヲ年報ニ御記入相成様致度申添候

左記

- 一、規定變更若ハ計畫上ノ改正要領
- 二、講話ノ場所、回數聽衆ノ狀況其他
- 三、印刷物配布ノ方法並其數等
- 四、豫防撲滅智識普及ノ方法患者受診獎勵ノ方法等
- 五、早期診斷ノ狀況
- 六、當年度ノ支出經費ハ年度歳出豫算書式臨時部「五項」結核豫防撲滅事業ト同様ニ「目」ニ區分シ其備考ニハ尙豫算明細書備考ノ例ニ準シ記載スル事
- 七、本社以外ノ官、公、私設結核豫防事業ニ關スル事項
- 八、其他施設上參考トナルヘキ事項

第六章

救護員



現行 日本赤十字社例規類集第六章目次

○第六章 救護員

◎第一節 養成

- 日本赤十字社救護員養成規則 三五九
- 日本赤十字社救護員養成細則 三七一
- 救護看護婦救護看護人各生徒救護看護婦長、救護看護人長、各候補生ノ教授及
試驗採點ニ關スル件 三七九
- 日本赤十字社救護員志願者身體検査規程 三九一
- 生徒及候補生優等卒業者ニ對スル賞品授與方ノ件 三九五
- 生徒及候補生ニシテ本部受託ノ者ハ本社病院長ニ於テ賞品撰定授與ノ件 三九七
- 日本赤十字社救護員生徒養成配屬區分及派遣ニ關スル規程 三九九
- 救護看護人生徒寄宿料増額方ノ件 四〇三
- 救護員生徒學科教授擔任者報告方ノ件 四〇五
- 全部陸軍病院委託ノ救護看護人生徒ノ卒業證書等ニ關スル件 四〇七
- 救護看護婦生徒及救護看護婦長候補生現食料増額ノ件 四〇九
- 救護看護婦生徒及救護看護人生徒募集ノ都度報告ノ件 四一一
- ◎第二節 任用
- 日本赤十字社救護員任用規則 四一三

- 救護團體編成定員ニ對スル補充員ノ件 四二五
- 戰時編制人員中調劑員ハ當分配屬セサルニ付任用ニ及ハサル件 四二七
- 救護看護婦組長救護看護人組長選命方ノ件 四二九
- 救護員ノ席次ニ關スル件 四三一
- 救護員任用及解職辭令書式ノ件 四三三
- 救護看護婦救護看護人初任日附一定ノ件 四三五
- 救護員任用手續濟ノ上ハ履歷書戸籍謄本及誓約書ヲ支部ニ保存ノ件 四三七
- 救護員書記以下任用及各生徒採用ノ節報告並救護員異同報告ノ件 四三九
- 救護員任用ノ際交付スヘキ書類ノ件 四四三
- 救護看護婦監督以上海外旅行其他異動ノ都度報告ノ件 四四五
- 救護員誓約年限計算方法ノ件 四四七
- 救護醫員推薦書ニ修得ノ外國語及得意科記入方ノ件 四四九
- ◎ 第三節 召集
- 日本赤十字社救護員召集規則 四五一
- 召集等ノ場合御諭旨捧讀ノ件 四五九
- 日本赤十字社救護員點呼規程 四六一
- 他管内在住救護員點呼ノ件 四六七
- 點呼召集當時ノ諭告及注意事項ヲ不應召者ニ告知ノ件 四六九
- 日本赤十字社救護團體演習規程 四七一
- 日本赤十字社救護醫員講習規程 四七三

◎ 第四節 規律 懲戒

- 御諭旨 四七五
- 救護員心得 四七七
- 救護員陸海軍人ニ對シテ敬禮方ノ件 四七九
- 日本赤十字社救護員懲戒規則 四八一
- 戰時服務中ノ救護員刑罰ニ關スル件 四八五
- ◎ 第五節 服 制
- 日本赤十字社救護員服制 四八七
- 日本赤十字社救護員服裝規程 五〇三
- 救護員制服作製心得 五〇七
- 救護員被服物品作製心得 五三九
- 救護員生徒及候補生服裝ニ關スル件 五七五
- 生徒取締ニ從事スル看護婦長看護婦ハ制服ヲ着用シ得ル件 五七七
- 救護團體ニ配屬スル厨夫使丁剃夫洗濯夫服制ニ關スル件 五七九

○第六章 救護員

◎第一節 養成

●日本赤十字社救護員養成規則

大正六年十二月十九日
本達甲第一一號

改正 ●大正八年五月二十日
本達第六號

日本赤十字社救護員養成規則別冊ノ通改正ス
(別冊)

日本赤十字社救護員養成規則

第一條 本則ハ救護看護婦、救護看護人各生徒及救護看護婦長、救護看護人長各候補生ノ養生ニ關スル事項ヲ規定ス

第二條 生徒ノ養成ハ傷者病者ノ看護ニ關スル學術並赤十字事業及陸海軍衛生勤務ノ要領ヲ教授スルヲ以テ目的トス
候補生ノ養成ハ前項ノ學科術科ニ練達セシメ且部下ノ指導ニ必要ナル能力ヲ修得セシムルヲ以テ目的トス

第三條 生徒ハ所要ニ從ヒ本部又ハ支部ニ於テ採用シ生徒養成配屬區分ニ依リ本社病院若ハ支部病院ニ於テ之ヲ養成ス但シ救護看護人生徒ノ實務練習ハ陸軍病院ニ依託ス
場合ニ依リ救護看護人生徒ノ養成ハ全部陸軍病院ニ依託スルコトヲ得

第四條 前條ノ生徒養成配屬區分ハ社長之ヲ定ム

第五條 候補生ハ所要ニ從ヒ本部又ハ支部ニ於テ之ヲ採用シ本社病院ニ於テ之ヲ養成ス

第六條 救護看護婦生徒及救護看護婦長候補生ハ陸軍病院又ハ海軍病院ニ派遣シ必要ノ勤務ヲ見學セシム

第七條 生徒ハ一般志願者ヨリ募集ス

第八條 生徒志願者ハ左ノ年齢及身長ニ相當スルヲ要ス

一 救護看護婦生徒ハ十六年以上二十五年未満ニシテ身長四尺七寸以上

二 救護看護人生徒ハ二十年以上四十年未満ニシテ身長五尺以上

第九條 生徒志願者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該ル者ハ採用セス

一 身體強健ナラサル者

二 素行修マラサル者

三 家資分産又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ未タ復權ヲ得サル者及從前身分限ノ處分ヲ受ケ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者

四 懲役又ハ無期若ハ六箇月以上ノ禁錮ニ處セラレタル者及舊刑法ニ依リ重罪又ハ定役ニ服スヘキ輕罪ノ刑ニ處セラレタル者

五 修業年間家事ニ係累アル者

六 常備兵役、後備兵役、補充兵役ニ關係アル者

七 有夫ノ者

第十條 生徒志願者ハ願書書式第一號ニ履歷書及戶籍謄本ヲ添へ募集ヲ行フ本部又ハ支部ニ差出スモノトス

生徒ニ採用セラレタル者ハ身元確實ナル者二名(内一名ハ公民權ヲ有スル者)ヲ保證人ト爲シ入學證

書書式第二號市區町村長ノ身元證明書(第九條ノ第三號第四號第六號ニ該ラサル者ナルコト)ヲ差出スモノトス但シ保證人ノ内一名ハ其ノ募集ヲ行フ本部又ハ支部所在地又ハ其附近ニ在住スル者ニ限ル

第十一條 生徒ハ試験ヲ行ヒ之ヲ採用ス試験科目ハ左ノ如シ

第一 身體検査

第二 學科試験

一 讀書 漢字交リ文

二 作文 往復書簡文

三 書取 普通ノ文書

四 算術 四則雜題

第三 試問

學科試験ハ高等小學校終業ノ程度ニ於テ之ヲ行フ但シ高等小學校終業ノ者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ト認ムヘキ修業證書所持ノ者ハ第二ノ一、二、四ノ試験ヲ行ハサルコトヲ得

第十二條 生徒志願者身體検査ニ合格シタルトキハ學科試験及試問ヲ行ヒ其ノ及第者ヲ定メ成績ノ順序ニ依リ所要ノ人員ヲ採用ス前項ノ及第者ニシテ採用ニ漏レタル者ニハ試験合格證書ヲ交付シ生徒ノ闕員ニ際シ更ニ身體検査ヲ行ヒ之ヲ採用スルコトアルヘシ但シ試験合格證書ノ効力ハ六箇月トス

第十三條 候補生ハ救護看護婦、救護看護人ニシテ學術及勤務ノ成績良好且部下取締ノ才能アリト認ムル者ヨリ採用ス

候補生ニ採用セラレタル者ハ第十條第二項ノ例ニ依リ保證人ヲ立テ入學證書ヲ差出スモノトス

第十四條 生徒ノ養成期間ハ救護看護婦生徒ハ滿三箇年救護看護人生徒ハ滿十箇月トス

救護看護人生徒ニシテ曾テ陸軍又ハ海軍ニ於テ看護學又ハ擔架術ノ教育ヲ受ケタルモノニ對シ支部